

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 1 4 号

2 0 1 2 年

(2011年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池 2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

目 次

I. 2011年度を振り返る

1. 2011年度 社会福祉学部概括	1
2. 2011年度 社会福祉学部主要行事	3
3. 2011年度 社会福祉学部時間割	4

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

社会福祉学部 教員一覧（2011年度）	7
1. 小坂田稔	9
2. 杉原俊二	12
3. 住友雄資	15
4. 田中きよむ	17
5. 長澤紀美子	21
6. 林美朗	24
7. 前山智	26
8. 丸岡利則	28
9. 宮上多加子	30
10. 黒田しづえ	32
11. 後藤由美子	34
12. 鈴木孝典	36
13. 西内章	40
14. 上白木悦子	42
15. 新藤こずえ	45
16. 西梅幸治	47
17. 鳩間亜紀子	49
18. 福間隆康	50
19. 三好弥生	52
20. 稲垣佳代	54
21. 加藤由衣	56
22. 鈴木裕介	58
23. 田中眞希	60
24. 橋本力	62
日本社会福祉学会中国・四国部会 第43回大会	64

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部 委員会体制一覧（2011年度）	67
1. 教 務 委 員 会	68
2. 入 試 委 員 会	69
3. 学 生 委 員 会	71
4. 実 習 委 員 会	73
5. 就 職 委 員 会	75
6. 広 報 委 員 会	76
7. 地 域 創 成 セ ン タ ー	80
8. 健 康 長 寿 セ ン タ ー	84
9. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	93
10. 総 務 ・ 予 算 委 員 会	95

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	97
2. 国 際 交 流	99
3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加	100
4. グ ロー カ ル ク ラ ブ	101
5. 太 鼓 部	102
6. 池 手 話 サ ー ク ル	103
7. い け と べ ！	104
8. ハ モ ☆ イ ケ	105
9. か ん き も ん	106

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2011年度）

編 集 後 記

I

2011年度を振り返る

2011年度 社会福祉学部活動概括

学部長 前山 智

1. 教員体制

- ・2011年度は学部拡充の教員増に伴う新規採用8名が加わり教員数24名。
職位構成は教授9名、准教授4名、講師6名、助教5名。
担当分野構成は福祉基礎5名、社会福祉11名、介護福祉5名、精神保健福祉3名。

2. 教育

- ・2010年度から導入した国家資格取得のための3つのコース(介護・社会福祉、精神・社会福祉、社会福祉)を学生が選択するに当たり、オリエンテーションを実施。
- ・介護・社会福祉コースを選択した2回生による介護実習が始まる。
- ・8月から10月にかけて3回生が相談援助実習を、4回生が精神保健福祉援助実習を行い、1月に学生による相談援助実習報告会、3月に実習先を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・4回生の卒業研究では、5月に構想発表会、10月にポスター形式による中間発表会を経て、12月20日締切りで提出され、発表会を2月に開催。
- ・現場の社会福祉・介護福祉・精神保健福祉の専門職を非常勤講師に招いて、社会福祉特別演習Ⅱ～Ⅶを開講。
- ・平成24年度から適用される精神保健福祉士養成の新カリキュラム導入にむけて、カリキュラムの整備と厚労省に確認申請を行なう。

3. 研究

- ・研究成果としては著書2編、論文32編、学会発表20件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」に12件投稿。
- ・科学研究費を介した他大学教員との共同研究5件。
- ・科学研究費へ11件応募し、応募率は69%。
- ・学部内の研究に関する情報を共有するため学会・研究報告会を2回開催。
- ・若手研究者を育成するために研究費を職位に対して逆傾斜配分。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第13号を作成・公表。
- ・外部講師による学部FDを1回開催。
- ・学外の「2011年度全国社会福祉教育セミナー」や「2011年度社会福祉士養成校協会中四国ブロック教員研修会」に参加。
- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修プログラムを受講。

5. 入学生と2012年度入学試験

- ・4月に第14期生76名(県内出身33名、男子10名)が入学した。
- ・2012年度推薦入試では、県内枠への志願者が30名(-1)で志願倍率1.5、全国枠は34名(+7)で3.4倍。全国枠へ高知県内からの出願者2名。
- ・2012年度一般入試では前期、後期とも志願数が増え、前期が177名(+37)で志願倍率5.1、合格倍率3.9、後期が203名(+68)で志願倍率40.6、合格倍率13.4。

6. 卒業生と就職状況

- ・ 3月に第11期生34名が卒業。
- ・ 卒業生を講師とした学部就職セミナーを5月に開催。
- ・ 4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・ 3月末までに卒業生34名全員の就職が決定し、82%が福祉分野に、58%が県内に就職。
- ・ 就職先の内訳は、医療施設44%、福祉施設26%、公務員(准・臨時を含む)15%、一般企業15%。

7. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験

- ・ 4回生に国家試験に関するオリエンテーションを3回実施。
- ・ 4回生が1月初旬に恒例となっている国試直前強化合宿を行なう。
- ・ 1月末に実施された第24回社会福祉士国家試験に33名受験して25名合格(合格率75.8% / 平均26.3%、216校中12位)、第14回精神保健福祉士国家試験に21名受験して19名合格(合格率90.5% / 平均62.6%、117校中14位)で、両者とも平年並みの合格率。

8. 地域貢献活動

- ・ 「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から12月に掛けて開催、延べ約160名の福祉関係者等が参加。
- ・ オープンキャンパスの前日の7月30日に「高校生のための公開講座」を開催し、県外からの15名を含め67名の高校生が参加。
- ・ 「高知医療センターと高知県立大学との包括的連携に関する協定書」にもとづき、高知医療センターの地域医療連携室と連携事業(社会福祉学部教員によるコンサルテーション)を開始。

9. 広報活動

- ・ オープンキャンパスや進学相談会で配布する社会福祉学部のパンフレットを作成。
- ・ 3福祉士の資格に対応した社会福祉学部を高校に広報するため、県外出身の1回生24名を夏休み期間中に出身高校を訪問させた。
- ・ 学部ホームページにより学部行事や学生の活動などを発信。

10. 国際交流活動

- ・ エルムズ大学の短期研修に1・2回生6名が参加。
- ・ 学生4名が参加してタイにおいて国際ソーシャルワーク研修を試行的に実施。
- ・ 交流の可能性を探るためタイのマヒドン大学ラチャスーダ・カレッジを訪問。

11. 学会等

- ・ 日本社会福祉学会中国・四国部会大会を中国・四国の社会福祉系大学と協力して池キャンパスで7月に開催。

2011年度 社会福祉学部社会福祉学科 主要行事

4月	6-8日(水-金)	学生ガイダンス
	10日(日)	入学式(かるぽーと、14期生76名入学)
	11日(月)	前期授業開始(～8月9日)
	21日(木)	創立記念日/新入生バスハイク(香北健康センターセレネ日ノ御子キャンプ場)
	25日(月)	第1回教授会
5月	18日(水)	卒論構想発表会No.1/学部就職セミナー
	23日(月)	第2回教授会
	25日(水)	卒論構想発表会No.2
6月	18日(土)	学年間交流会
	27日(月)	第3回教授会
7月	9日(土)	学部FD学習会
	10日(日)	日本社会福祉学会中国・四国部会大会(池キャンパス)
	25日(月)	第4回教授会
	30日(土)	2011年度高校生のための公開講座
	31日(日)	オープンキャンパス
8月	22日(月)	第5回教授会
9月	26日(月)	第6回教授会
10月	3日(月)	後期授業開始(～2月17日)
	15日(土)	2011年度リカレント教育講座開講(4講座/10月15日、11月5・26日、12月10日)
	19日(水)	卒論中間発表会
	24日(月)	第7回教授会
11月	19日(土)	推薦入学試験(県内30+全国34名受験)
	28日(月)	第8回教授会
12月	20日(火)	卒論提出締切 / 国家試験受験激励会
	26日(月)	第9回教授会
1月	5-7日(木-土)	国家試験直前強化合宿(4回生企画、香北青少年の家)
	23日(月)	第10回教授会
	26日(木)	実習報告会
	28-29日(土-日)	第24回社会福祉士国家試験・第14回精神保健福祉士国家試験(33・21名受験)
2月	17日(金)	卒論発表会 / 4回生を送る会(3回生企画)
	25-26日(土-日)	前期日程入学試験(177名受験)
	27日(月)	第11回教授会
3月	6日(火)	実習連絡協議会
	12日(月)	後期日程入学試験(94名受験)
	19日(月)	卒業式(県民文化ホール、11期生34名卒業)
	26日(月)	第12回教授会

2011年度 社会福祉学部 時間割 <前期> 2011年4月7日版

月	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限	
	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室
1	田中	E102	英語コミュニケーションⅠ(1回生)	掲示	12:50~14:20	F110	14:30~16:00		16:10~17:40	
2	掲示	掲示	英語コミュニケーションⅡ	掲示	福祉対象入門 福祉援助入門*1 (社会地域福祉の理論と方法)	E103	福祉対象入門 福祉援助入門*1 (社会地域福祉の理論と方法)	E102 E102 E103	ジェンダー学入門	
3										
4										
1	長澤	E102	(社会)社会理論と社会システム (介護)介護の基本Ⅰ (社会)児童や寡慮に対する 支援と児童家庭福祉制度	(玉里) 後藤 杉原	E102 F110 E103	住友 住友 小坂田	心の科学 精神保健福祉論	大講義室 大講義室 E103 F110・E102 観察室	大講義室	大講義室
2	西内・西 柁・加藤	E103 F110・観察室	医療福祉論	上白木	観察室	鈴木孝	精神保健福祉論	観察室		
3			精神科リハビリテーション学	稲垣	D206					
4										
1	清原	体育館	社会福祉入門演習	黒田・福岡	E102	岩倉 風間	日本国憲法 情報と社会	大講義室 A306	岩倉 谷本	大講義室 A306
2	掛水	体育館	(社会)相談援助の理論と方法	西内・西 柁・加藤	E103	黒田 杉原	(介護)こころからのしくみⅠ 子育て支援論	F110 E103	谷本 新藤	大講義室 A306 E103
3			医療ソーシャルワーク論	鈴木裕	観察室	林	精神保健学	観察室	担当教員	掲示
4						(上村)	権利擁護と成年後見制度	D206		福祉研究演習Ⅲ
1	井本	大講義室	英語コミュニケーションⅠ(1回生)	掲示	掲示	吉川	哲学入門	大講義室	吉川	大講義室
2	掲示	掲示	英語コミュニケーションⅢ	掲示	掲示	林	人体の構造と機能及び疾病	E103	宮上	F110
3	鈴木孝・ 稲垣・住友	E103	相談援助演習	小坂田・ 鈴木裕	観察室 E103	上白木	ケアマネジメント論	観察室	西内ほか	観察室 E102
4	鈴木孝・ 稲垣・住友	E103	更生保護制度(4-5月)	(宮本)	D206	(宮本)	更生保護制度(4-5月)	D206		
1	(川崎) 林・黒田	大講義室 F110	(介護)介護総合演習Ⅰ	後藤・田中眞	F110	三好	(介護)コミュニケーション技術	F110	前山	D207
2	田中	E103	(社会)障害者に対する支援 と障害者自立支援制度	新藤	E103	宮上・橋本	(社会)高齢者に対する支援 と介護保険制度	E103		
3			相談援助演習	丸岡・橋本	観察室 E102	林	精神医学	観察室	長澤	観察室
4										
科目名等	教員		開講月日							
心とからだの科学	(本間・川崎)		掲示							
介護実習Ⅰ	後藤・黒田・ 三好・田中眞		掲示							
地域福祉活動Ⅰ	宮上・田中・ 杉原・林・小坂田		掲示							
相談援助実習	西内ほか		掲示							
就労支援サービス	(野中)		掲示							

[備考]*1 受講登録は、前期集中ですること

2011年度 社会福祉学部 時間割 <後期>2011年10月7日版

月	1 時限			2 時限			3 時限			4 時限			5 時限		
	8:40~10:10	10:20~11:50	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員
	(介護)介護の基本 I	英語コミュニケーションⅠ(1回生)	日本語現代史	日本近現代史	社会福祉ふれあい実習	A318	田村	A318	西内ほか	E103					
	英語コミュニケーションⅠ(2回生以上)	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅡ	土佐の自然と暮らし 介護技術(2/3)	社会福祉ふれあい実習	F110	黒田・三好・ 田中真	F110	鈴木孝・稲垣	F110					
	精神医学	介護技術(1/3)	福祉行政と福祉計画	福祉サービスの組織と運営		E103	田中き	E103	福岡	E103					
		事例研究法				E102	西内	E102							
1	社会保障	現代社会と福祉	介護技術(2/3)	介護技術(3/3)	介護生活支援技術Ⅱ	E102	長澤	E102	井本ほか	A318	井本	A318	三好・ 田中真	F110*	家政実習室
2	(社会)相談援助演習	(社会)面接技法	(社会)生活支援技術Ⅳ	介護生活支援技術Ⅳ	社会福祉ふれあい実習	E103	杉原	E103	宇野	A318	三好・田中真	A319	三好・田中真	F110*	家政実習室
3	精神保健福祉援助技術各論	精神科リハビリテーション学 (~4年生前期)	精神保健福祉援助技術各論	介護生活支援技術Ⅱ	社会福祉ふれあい実習	D206	宮上	E102	黒田	E102	黒田	E102	(吉永)	E103	
4															
1	(社会)相談援助の基礎と専門職 (介護)生活支援技術Ⅰ	(社会)相談援助の基礎と専門職 (介護)生活支援技術Ⅰ	地域おこし論	健康スポーツ科学Ⅱ	健康スポーツ科学Ⅱ	E102	丸岡	E102	梅村	A305	清原	体育館	黒田	F110	
2	(社会)相談援助の理論と方法 (介護)相談援助の基礎と専門職	(社会)相談援助の理論と方法 (介護)相談援助の基礎と専門職	精神保健福祉援助演習	(介護)障害の理解Ⅰ	(介護)障害の理解Ⅰ	D206	後藤	D206	橋尾ほか	A306	(宮本)	体育館	前山	D207	
3	精神保健福祉援助演習	精神保健福祉援助演習	精神保健福祉援助演習	精神保健福祉援助技術各論	精神保健福祉援助技術各論	E103	丸岡	E103	宮上	A319	三好・林	F110	三好・田中真	E103	
4		国際福祉論Ⅱ				E102	長澤	A318	住友	E103	担当教員		担当教員		
1	社会福祉基礎演習	英語コミュニケーションⅠ(1回生)	音楽入門	現代社会論	音楽入門	E103	黒田・福岡	E103	門脇	A318	團野	A319	名和	大講義室	
2	英語コミュニケーションⅠ(2回生以上)	英語コミュニケーションⅢ	虐待防止論	文学の世界	虐待防止論	F110	宮上	F110	田中き	A320	名和	A318	山本		
3		(介護)発達と老化の理解Ⅱ	(介護)介護の基本Ⅲ	ケアマネジメント演習	(介護)介護の基本Ⅲ	F110	鈴木孝・ 稲垣・住友	F110	東原ほか	E103	田中真	E103	西内ほか		
4		精神保健福祉援助演習	精神保健福祉援助演習			F110	鈴木孝・ 稲垣・住友	F110	杉原・橋本	F110	田中真	E102*	観察室		
1	(介護)介護総合演習Ⅰ	(介護)介護の基本Ⅱ	(介護)介護の基本Ⅱ	(介護)介護の基本Ⅱ	(介護)介護の基本Ⅱ	F110	後藤	F110	後藤	F110	黒田・田中真	F110	黒田・田中真	F110	
2	(介護)生活支援技術Ⅴ	社会調査の基礎	保健医療サービス	保健医療サービス	保健医療サービス	E103	橋本・加藤	E103	林	E103	三好・嶋間	E103	三好・嶋間	E103	
3		精神保健学	精神保健学	精神保健学	精神保健学	D206	林	D206	鈴木孝	D206	長澤	D206	長澤	D206	
4															
後	社会福祉特別演習Ⅱ	社会福祉特別演習Ⅲ	社会福祉特別演習Ⅳ	社会福祉特別演習Ⅴ	社会福祉特別演習Ⅵ										
中	社会福祉特別演習Ⅶ	社会福祉特別演習Ⅷ	社会福祉特別演習Ⅷ	社会福祉特別演習Ⅷ	社会福祉特別演習Ⅷ										
講	介護実習Ⅱ①	地域福祉活動Ⅱ													
義															

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書) 他

2011年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	小 坂 田 稔	博 士（学 術）	地 域 福 祉 論
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児 童・家 族 福 祉 論
教 授	住 友 雄 資	博 士（臨 床 福 祉 学）	精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	福 祉 行 財 政 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福 祉 政 策 論／国 際 比 較 研 究
教 授	林 美 朗	博 士（医 学） 博 士（文 学）	精 神 医 学
教 授	前 山 智	博 士（工 学）	情 報 教 育／X 線 分 光
教 授	丸 岡 利 則	修 士（社 会 福 祉 学）	理 論 福 祉 学
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社 会 福 祉 学）	介 護 福 祉 論
准 教 授	黒 田 しづえ	修 士（人 間 科 学）	介 護 福 祉 論
准 教 授	後 藤 由 美 子	修 士（社 会 福 祉 学）	介 護 福 祉 論
准 教 授	鈴 木 孝 典	博 士（人 間 学）	精 神 保 健 福 祉 論
准 教 授	西 内 章	修 士（社 会 福 祉 学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
講 師	上 白 木 悦 子	博 士（医 学）	医 療 福 祉 論
講 師	新 藤 こずえ	修 士（教 育 学）	障 害 者 福 祉 論／N P O 論
講 師	西 梅 幸 治	博 士（福 祉 社 会 学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
講 師	鳩 間 亜 紀 子	修 士（社 会 福 祉 学）	高 齢 者 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

講 師	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	福祉サービスの組織と経営
講 師	三 好 弥 生	修 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	加 藤 由 衣	修 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	鈴 木 裕 介	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	田 中 眞 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	橋 本 力	修 士（学 術）	高 齢 者 福 祉 論

小坂田 稔

Minoru OSAKADA

○研究活動

（1）論文等（3）

小坂田稔(2012)「実践的地域包括ケアシステム構築の方法と課題—総社市と美咲町の取り組みを通して—」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』第61巻, pp. 1-23.

堀川涼子・小坂田稔(2012)「高齢化が進む中山間地域におけるまちづくり 第1報—地域と大学が協働で行ったニーズ調査の結果について—」美作大学紀要 45, pp. 43-54.

小坂田稔「地域包括ケアとは何か—『地域包括ケアシステム』の考えを基に考える」『作業療法ジャーナル VOL. 45 NO. 6 2011』三輪書店, pp. 551-559, 2011年6月

○教育活動

（1）学部

「地域福祉の理論と方法」「社会福祉ふれあい実習」「相談援助演習」「相談援助実習指導」「相談援助実習」「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」「地域福祉活動Ⅰ」「地域福祉活動Ⅱ」

○委員会活動

【全学】FD委員会設立準備会委員

【学部】実習委員長 教務委員 社会福祉士養成校協会担当

○社会的活動

（1）委員等

- ・高知県社会福祉審議会副会長
- ・高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会委員長
- ・高知県地域包括支援ネットワークシステム研究会委員
- ・岡山県介護予防市町村支援委員会委員長
- ・岡山県津山市地域包括ケア会議会長
- ・岡山県総社市地域包括ケア会議委員
- ・岡山県真庭市社会福祉協議会第1次地域福祉活動計画評価委員会委員長
- ・岡山県真庭市社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画策定委員会委員長
- ・岡山県福祉移送特区津山・真庭・勝英地区運営協議会会長
- ・岡山県久米郡地域福祉商業等研究事業委員会委員
- ・岡山県津山市城東まちづくりプロジェクト実行委員会委員

（2）各種研修講師等

- ・「高知型地域福祉実現のために一人ひとりができること」（第62回高知県社会福祉大会）平成23年11月29日（火）
- ・「誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて～今、私たちに求められていること～」（「第28回須崎市社会福祉大会」）平成23年11月5日（土）
- ・「住民ニーズから始まるボランティアセンター活動」（高知県ボランティアセンター研究会研修）平成23年12月7日（水）

教育研究活動報告書（小坂田 稔）

- ・「新しい支え合いによる地域づくり」（高知市・アテラーノ旭 [安心して暮らせるまちづくりのための勉強会]）平成 23 年 6 月 28 日（火）
- ・「地域包括支援ネットワークシステムと地域支援の全体像」（高知県社会福祉協議会「地域支援ワーカー研修」）平成 23 年 6 月 22 日（水）
- ・「第一回地域支援事例研究会」アドバイザー（高知県社会福祉協議会）
平成 24 年 2 月 8 日（水）
- ・「地域福祉と権利擁護」（高知県社会福祉協議会・総合相談・生活支援研修会）
平成 24 年 2 月 22 日（水）・23 日（木）
- ・「社会福祉協議会の役割」（土佐清水市社会福祉協議会役職員研修）
平成 23 年 10 月 5 日（水）
- ・「誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて」（平成 23 年度介護予防推進連絡会研修）平成 23 年 10 月 26 日（水）
- ・「いきいきとした暮らしづくりに向けて～地参・地笑の地域づくり～」（土佐清水市社会福祉協議会「平成 23 年度地域福祉研修会」）平成 23 年 12 月 6 日（火）
- ・「地域福祉推進における社会福祉協議会の役割」（土佐町社会福祉協議会体制整備強化プロジェクト事業）平成 24 年 2 月 9 日（金）
- ・「地域包括支援ネットワークシステムの構築に向けて-小地域ケア会議の役割とありかた-」（四万十市西土佐あったかふれあいセンター [いちいの郷] 運営推進会議）
平成 24 年 1 月 25 日（水）
- ・「実践的地域包括ケアシステムの構築に向けて～地域ケア会議の推進～」（山梨県地域包括支援センター職員研修）平成 24 年 3 月 8 日（木）
- ・「地域福祉推進における社会福祉協議会の役割」（「岡山県総社市社会福祉協議会役員等研修会」）平成 23 年 7 月 15 日（金）
- ・「社会福祉協議会の使命・進むべき方向」（岡山県津山市社会福祉協議会職員研修）
平成 23 年 6 月 25 日（土）
- ・「コミュニティワークについての理解」講義・演習（岡山県社会福祉協議会「社協コミュニティワーカー養成講座」）平成 23 年 8 月 22 日（月）・12 月 27 日（月）
- ・シンポジウム「人が地域が元気になる!絆づくりの実践報告」コーディネーター（岡山県総社市・地域づくりフォーラム）平成 23 年 9 月 23 日（金）
- ・「地域援助技術」（鳥取県・平成 23 年度「主任介護支援専門員研修」）
平成 23 年 12 月 10 日（土）
- ・「小地域ケア会議の位置づけについて」（兵庫県相生市社会福祉協議会・平成 23 年度地域福祉リーダー研修）平成 23 年 8 月 27 日（土）
- ・「実践的地域包括ケアシステムの構築に向けて-小地域ケア会議の役割とありかた-」（倉敷市玉島地区地域ケア会議研修会）平成 24 年 2 月 6 日（月）
- ・講演「小地域ケア会議の必要性と役割～住民主体の地域づくり～」
グループワーク「小地域ケア会議実践の課題や工夫をみんなで語ろう!聴こう!そして深めよう!」（岡山県社会福祉協議会・「平成 23 年度地域包括ケアシステムセミナー」）平成 24 年 2 月 29 日（水）
- ・講演「生き生きとした暮らしづくりをめざして～人は安心できる場所でこそ輝く～」
パネルディスカッション「わがとこ福祉活動自慢」アドバイザー（島根県出雲市社会福祉協議会・地域福祉シンポジウム）平成 24 年 2 月 28 日（火）
- ・「おもちゃ図書館ってだれのもの」（おもちゃ図書館ボランティア）中国・四国地区研修会）平成 23 年 11 月 6 日（日）
- ・「社会福祉協議会とコンプライアンス～社会福祉協議会の役割と職業倫理～」（岡山県真庭市社会福祉協議会職員研修会）平成 24 年 3 月 2 日（金）

○総合評価と今後の課題

（１）教育活動について

本年度は、本学においての最初のゼミを持つこととなったが、地域福祉、公共経営についての専門書講読を中心に行った。さらにゼミ生を様々な実践現場へ同行し、実際の福祉現場から学ぶゼミを行った。この理論と実践からの学びを組み合わせながらゼミ内で議論を行うことにより、かなり高い知識と意識が育ったように思う。しかし、当初予定していたいくつかの文献講読が残った点は、今後の課題であり、さらなる工夫が必要と考えている。

授業においては、これまでと同じく、実際の具体的な事例を紹介しながら、これを基にした授業展開に取り組んだ。特に本年度は、高知県内の動きや取り組みを中心にした事例提供を心がけた。理論が、具体的な姿として頭に思い浮かぶ授業の形を工夫しながら、理解ができる授業方法を工夫した。さらに、より実践に結びつく授業内容に努めていきたい。

（２）研究活動について

・「実践的地域包括ケアシステム」について

今年度もさらに「実践的地域包括ケアシステム」のありかたについて、様々な地域での具体的な構築に取り組み、その実践内容を基にして研究を進めた。特に、今年度は、厚労省の進める「地域包括ケアシステム」との相違を明確にし、地域福祉の視点からのシステム構築の必要性を整理し、明確にした。

・中山間地における地域福祉のあり方

中山間地における地域福祉の推進方法について、昨年度から取り組んできた岡山県津山市加茂物見地区での取り組みを住民・行政・社協などと連携しながら進め、これからの活動内容について地域住民に提案し、了承を得た。また、津山市中心部における高齢化率の高い城東地区においても、地域福祉活動のあり方について、住民の意識調査に取り組み、その結果を基にこれからの地域づくりのあり方について協議し、その方向をまとめた。（この結果は、「城東地区のまちづくりに向けて～ひとの話 まちの輪 城東の和～」として纏めた。）今後は、これらの地域での取り組みをよりいっそう進めながら、高齢化の進む中山間地と市街地域での地域福祉のあり方についての研究をより具体的に進めていきたい。

（３）社会活動について

・「地域包括支援ネットワークシステム」構築への取り組み

昨年策定した「高知県地域福祉支援計画」の具体的な実践化に取り組んだ。特に、本計画の中心となる地域包括支援ネットワークシステムの構築に向けて、高知県地域福祉部主宰の「地域包括支援ネットワークシステム研究会」の委員として、高知県としてのシステム構築方法を研究し、その結果を各市町村担当者に報告し、構築への理解づくりを図った。またこの計画に基づく地域福祉を実践していくための人材育成を図るため、高知県社会福祉協議会とともに「高知型地域支援ワーカー研修」に関わり、その育成に努力した。さらに、本年度は、岡山県と山梨県での小地域ケア会議や地域ケア会議の取り組みも支援した。

・地域福祉活動計画の策定

今年度は、昨年度に引き続き、計画策定委員長として、岡山県真庭市社会福祉協議会の「真庭市第2次地域福祉活動計画」策定に関わり、向こう5年間の地域福祉活動計画を策定した。

・地域福祉型商業への取り組み

岡山県久米郡商工会と協働し、岡山県助成事業として、中山間地における買い物支援の方法についての研究事業に取り組んだ。その結果として、行政・社協・地域住民・商工会が連携した地域福祉型移動販売としての「買い物サロン」（多機能型サロン）を実現することができた。

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○研究活動

（1）学術論文

（原著）※査読有り（3件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法（Ⅰ）－健常者への予備調査の検討」『人間科学研究』8, 1-6. (2011年7月)
2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法（Ⅱ）－うつ経験者への予備調査の検討」『人間科学研究』8, 7-12. (2011年7月)
3. 杉原俊二「自分史分析に関する一考察（Ⅸ）－うつ経験者の4テーマ分析法での中絶・再開事例の検討」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』61, 25-40.
(2012年3月)

（研究ノート、事例報告など）（30件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（10）－学者Mの博士号取得と結婚（後篇）」『質的研究法』61, 2-7. (2011年4月)
2. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（1）－1つの医局に所属している内科医師」『質的研究法』61, 8-13. (2011年4月)
3. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（11）－学者Mの短大教授への道（前篇）」『質的研究法』62, 2-7. (2011年5月)
4. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（2）－外科医局を渡り歩いた医師（前篇）」『質的研究法』62, 8-13. (2011年5月)
5. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（5）－Rさんのリハビリ期」『人間科学』39, 2-7. (2011年6月)
6. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（6）－Rさんの自分史振り返り」『人間科学』39, 8-13. (2011年6月)
7. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（12）－学者Mの短大教授への道（中篇）」『質的研究法』63, 2-7. (2011年6月)
8. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（3）－外科医局を渡り歩いた医師（中篇）」『質的研究法』63, 8-13. (2011年6月)
9. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（13）－学者Mの短大教授への道（後篇）」『質的研究法』64, 2-7. (2011年7月)
10. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（4）－外科医局を渡り歩いた医師（後篇）」『質的研究法』64, 8-13. (2011年7月)
11. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（14）－学者Mの振り返り」『質的研究法』65, 2-7. (2011年8月)
12. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（5）－私立医大勤務から開業した医師（前篇）」『質的研究法』65, 8-13. (2011年8月)
13. 杉原俊二「ある軍事研究者の告白－うつ回復期での語り（1）」『人間科学』40, 2-7.
(2011年9月)
14. 杉原俊二「ある銀行マンの告白－うつ回復期での語り（2）」『人間科学』40, 8-13.
(2011年9月)
15. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（15）－学者Hの経歴からの検討」『質的研究法』66, 2-7. (2011年9月)

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

16. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（6）－私立医大勤務から開業した医師（中篇）」『質的研究法』66, 8-13.（2011年9月）
17. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（16）－学者HのPSWと大学4年と修士課程時代（前篇）」『質的研究法』67, 2-7.（2011年10月）
18. 杉原俊二「研究者の『所属した研究室』に関するテーマ分析（7）－私立医大勤務から開業した医師（後篇）」『質的研究法』67, 8-13.（2011年10月）
19. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（17）－学者HのPSWと大学4年と修士課程時代（後篇）」『質的研究法』68, 2-7.（2011年11月）
20. 杉原俊二「経歴の説明書（Ⅰ）相談員と学生・教員－「ころ」のフィールドノート（18）」『質的研究法』68, 8-13.（2011年11月）
21. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（7）－Tさんの経歴からの分析」『人間科学』41, 2-7.（2011年12月）
22. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（8）－Tさんの小学生から大学生まで」『人間科学』41, 8-13.（2011年12月）
23. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（18）－学者HのPSWとC短大教員時代（前篇）」『質的研究法』69, 2-7.（2011年12月）
24. 杉原俊二「経歴の説明書（Ⅱ）説明できなかったエピソード－「ころ」のフィールドノート（19）」『質的研究法』69, 8-13.（2011年12月）
25. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（19）－学者HのPSWとC短大教員時代（後篇）」『質的研究法』70, 2-7.（2012年1月）
26. 杉原俊二「経歴の説明書（Ⅲ）専門学校教員時代－「ころ」のフィールドノート（20）」『質的研究法』70, 8-13.（2012年1月）
27. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（20）－学者HのPSWからD短大教員への道程（前篇）」『質的研究法』71, 2-7.（2012年2月）
28. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（9）－Tさんの発症時まで」『人間科学』42, 2-7.（2012年3月）
29. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（10）－Tさんの発症後」『人間科学』42, 8-13.（2012年3月）
30. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（21）－学者HのPSWからD短大教員への道程（後篇）」『質的研究法』72, 2-7.（2012年3月）

（2）学会発表等（3件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援－予備調査の検討から」日本家族研究・家族療法学会第28回大会（静岡県コンベンションアーツセンター）2011年6月3日
2. 杉原俊二「自分の説明書－自分史分析10年の研究を通して」（特別講演）日本人間科学研究会第6回学術大会（大阪キリスト教短期大学）2011年1月21日
3. 杉原俊二「児童虐待防止と親支援－保健所における子育て相談を通してのソーシャルワークの実践」（シンポジウム）日本人間科学研究会第6回学術大会（大阪キリスト教短期大学）2011年1月21日

○教育活動

- （1）学部：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「子育て支援論」「面接技法」「虐待防止論」（2年生）「相談援助実習指導」（2・3年生）「相談援助実習」「相談援助演習（事後実習）」（3年生）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（4年生4名、3年生2名）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」（3年生2名）

- (2) 大学院 人間生活学研究科（修士課程）：「児童福祉論」（副指導教員1名）
- (3) 大学院 健康生活科学研究科（博士課程）：副査1名

○委員会活動

- (1) 学部
「教務委員長（FD委員長）」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」「総務委員」「予算委員」※「教員採用・昇任基準ワーキングチーム委員」（1月から）
- (2) 大学院 健康生活科学研究科
「学務委員」「FD委員会準備委員」（1月から）

○社会的活動

- (1) 社会活動
高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- (2) 学会など
日本人間科学研究会 常務理事、KJ法学会 運営委員（副委員長）・編集委員、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）、2大学での博士論文審査者
- (3) 講演など
北川村教員研修会（8月12日）、高知県社会福祉協議会 相談従事者初任研修会（8月24日）、江ノ口養護学校講演（9月21日）、平成23年度高知県児童福祉司講習会「児童福祉論」（11月18日、12月2日）

○総合評価と課題

教育に関しては赴任3年目になり、2年生からは70人定員となり、授業の工夫をした。講義科目としては、昨年度と同様であった。講義ノートは充実してきたが、時間の都合で国試に関係の少ない項目について、割愛することも多かった。ゼミでは、全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせておこなった。

研究に関しては、「うつ経験者の回復期支援法—自分史分析（4テーマ分析法）を用いた支援の効果—」が科学研究費補助金の基盤研究（C）に採用され、研究を進めることができた。研究成果を確実に公表しなければならないというプレッシャーもあるが、本年度では、研究を丁寧に取り組むことができたと考えている。研究期間はあと1年間あり、一定の成果が上がっている。次へとつながる研究にしたい。

委員会については、本年度は教務委員長の任にあたった。法人化に伴う、教務関係の様々な変更が多く、仕事量は前年度よりも増えた。多くの先生方に助けていただき、何とか無難におこなうことができた。ただただ感謝である。また、教員採用・昇任基準ワーキングチーム委員に学部代表として参加した。前任校までの経験に加えて、研究者に対するナラティブの調査を生かすことができた。大変貴重な経験であった。

社会的な活動については、地域貢献として昨年度までの「スクールソーシャルワーカー」の講演とスーパービジョンに加えて、新任者研修会を開くことができた。今後とも継続していき、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。また、学会誌の査読や他大学での学位論文審査といった、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

住友 雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

(1) 学術論文 なし

(2) 著書

岩崎香・藏野ともみ・住友雄資編（2012）『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』中央法規出版。

栄セツコ・住友雄資・松本すみ子・森田久美子編（2012）『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』中央法規出版。

江間由紀夫・住友雄資・森田久美子・吉澤豊編（2012）『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規出版。

(3) 学会等発表 なし

(4) その他 なし

(5) 学内外資金獲得 なし

○教育活動

[学部]

- ・「福祉対象入門」
- ・「福祉援助入門」
- ・「福祉研究法」
- ・「精神保健福祉援助技術各論」
- ・「精神保健福祉援助実習」
- ・「精神保健福祉援助演習」

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・精神科ソーシャルワーク論
- ・課題研究演習（正指導教員3名，副指導教員4名）

[大学院]健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・精神障害者福祉論
- ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（主指導教員5名，副指導教員9名）

[他大学院]広島国際大学大学院医療・福祉科学研究科（修士課程）非常勤講師

- ・精神科地域リハビリテーション特論

○委員会活動

[学部]

- ・人事委員
- ・自己点検委員
- ・FD委員
- ・教務委員

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・研究科長

[全学]

- ・教育研究審議会委員
- ・大学院入試実施委員会 副委員長
- ・大学院見直し検討委員会委員
- ・非常勤講師審査会委員

○ 社会的活動

[学会・審議会・団体委員など]

- ・精神保健福祉士試験委員会副委員長
- ・日本精神保健福祉学会 理事兼事務局長
- ・一般社団法人日本社会福祉学会 査読委員
- ・日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
- ・一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 副会長

[講演など]

- ・長崎県PSW主催 講演「これからの精神保健福祉士像」（2011年6月19日）
- ・岡山県MSW・PSW協会主催 講演「自己覚知について」（2012年1月21日）

○ 総合評価と課題

教育面では、学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）を担った。特に、博士後期課程では、主指導教員として博士（社会福祉学）の修了生1名を送り出すことができた。

学内行政では、人間生活学研究科長として、新たな入試制度の導入、新たな院生指導体制（合同指導会）の導入、本研究科の見直しを検討する大学院見直し検討委員会への参加をとおして具体的な見直し案の検討をおこなった。定員割れは続いているが、研究科長就任後は少しずつではあるが入学生数は増えている。今後見直しを進めることによって、入学生数をさらに増やしていきたい。

学外業務では、今年度も精神保健福祉士試験委員会副委員長として、試験全体にかかわる業務を担った。また一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会副会長（総務・出版担当）を担い、特に精神保健福祉士新カリキュラムのテキスト刊行の責任者となって、中央法規出版からテキスト（精神保健福祉士養成講座全9巻）を刊行した。さらに2011年6月には日本精神保健福祉学会を立ち上げ、本学部にその事務局を置き、理事（総務担当）兼事務局長としての業務を始めた。

なお研究への取り組みが少ないことが最大かつ重要な課題である。2012～2014年度厚生労働科学研究「精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の開発と普及に関する研究（主任研究者：石川到覚大正大学教授）」に分担研究者として参加することになったので、学内外研究者等との連携のもとに、本研究への取り組みを開始することで研究を進めていきたい。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○研究活動

（1）論文・報告書

[論 文]

- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「限界集落における孤立高齢者への生活支援（中）」『高知論叢』第101号、pp.61-106（2011年7月）
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「限界集落における孤立高齢者への生活支援（下）」『高知論叢』第102号、pp.97-132（2011年11月）
- ・田中きよむ「社会保障制度改革の動向と本質」『障害者問題研究』Vol.39No.4 pp.2-9（2012年2月）
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「限界集落における孤立高齢者への生活支援（完）」『高知論叢』第103号、pp.69-122（2012年3月）

[報 告 書]

- ・田中きよむ「大阪市西成区釜ヶ崎におけるホームレス支援と高知におけるホームレス支援」『「こうちネットホップ」ニュース』第2号、pp.1-22（2011年9月）
- ・田中きよむ「台湾の高齢者介護の動向と日本の介護保険制度」『ふまにすむす』第23号、pp.53-70（2012年3月）
- ・障害者自立支援法施行後の実態調査研究会「障害者自立支援法と高知県の実態 障害者自立支援法後の実態調査（第三次）報告 一地域生活支援事業を中心とする地域格差をめぐって一」（社）高知県自治研究センターpp.1-35（2012年3月）
- ・高知市精神障害者家族会連合会・高知県立大学社会福祉学部田中研究室「精神障害者が地域で安心して生き生きと暮らせるために 一高知市における現状と課題・方向一」pp.1-23（2012年3月）

（2）学会発表

- ・田中きよむ「台湾の高齢者介護の動向と日本の介護保険制度」四国財政学会第52回研究会（2011年12月）

○教育活動

（1）学 部

（専門教育）

1. 社会保障論
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
4. 低所得者に対する支援と生活保護制度
5. 保健医療福祉論
6. 社会保障と看護

（共通教育）

1. 現代社会論
2. オムニバス「土佐の健康と福祉」

（2）大 学 院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習

○委員会活動

- ・(学 部) 人事委員会委員、高知県立大学社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員会委員長、自己点検評価委員会委員
- ・(全 学) 入試監査委員会委員長（学部）、入試監査委員会委員（大学院）

○社会的活動

(委員等)

- ・運営適正化委員会委員
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「これからの特別支援教育のあり方を考える会」会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・「新時代の図書館を考える高知の会」世話人

(講演等)

- ・愛媛保育問題研究協議会講演「社会保障制度改革と子ども・子育て新システム」
(2011年4月)
- ・ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会学習会報告「大阪市西成区釜ヶ崎におけるホームレス支援 ―第2回調査報告―」(2011年5月)
- ・土佐清水市社会福祉協議会講演「地域福祉（活動）計画と住民主体の地域づくり」
(2011年5月)
- ・「高知の保育を考えるつどい」実行委員長・分科会助言者(2011年5月)
- ・高知市精神障害者家族会「精神障害者が地域で安心して生き生きと暮らせるために」第2回・第3回ワークショップ・アドバイザー(2011年5月・8月)
- ・高知自治労連保育部講演「社会保障制度改革と子ども・子育て新システム」
(2011年6月)
- ・高知県精神科栄養士研修会講演「精神障害者が地域で安心して生き生きと暮らせるために」(2011年6月)
- ・後期高齢者医療制度学習会講演「後期高齢者医療制度のしくみとゆくえーそして災害時の高齢者福祉」(2011年6月)
- ・高知県介護支援専門員更新研修講師「人格の尊重及び権利擁護」(2011年6月)
- ・徳島県母親大会保育部会協力者(2011年6月)
- ・南国市保育行政研修講演「子ども・子育て新システムの動向とゆくえー子どもや保育はどうなるのー」(2011年6月)
- ・高知県社会福祉協議会地域支援ワーカー研修講師「地域支援ワーカーの理念・視点・方向」(2011年6月)
- ・高知県社会保障推進協議会総会講演「介護保険の10年と介護保険制度改革」
(2011年6月)
- ・高知県生協連役職員研修会講師「医療制度・社会保障制度のこれから」(2011年6月)

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・高知県母親大会「高齢期を安心してすごすために」部会協力者（2011年7月）
- ・日本社会福祉学会中国・四国部会（第43回大会）実行委員長、シンポジウム「今日の貧困問題の多様化とソーシャルワーク」コーディネーター（2011年7月）
- ・高知市民の大学講師「台湾の社会福祉」（2011年7月）
- ・土佐清水市地域福祉（活動）計画住民座談会アドバイザー（2011年7月・8月）
- ・しまんと町地域福祉活動計画推進委員会アドバイザー
(2011年7月・9月・12月、2012年1月)
- ・四国地域福祉実践セミナー（徳島）分科会「地域がつながり、地域が支える」アドバイザー（2011年8月）
- ・介護労働安定センター介護職員関係養成研修講師（2011年8月）
- ・日本弁護士連合会人権擁護大会プレシンポジウム「子どものための社会保障」シンポジスト（2011年9月）
- ・安芸市地域福祉シンポジウム基調講演「地域福祉（活動）計画と住民主体のまちづくり」（2011年9月）
- ・土佐清水市地域福祉（活動）計画作業部会アドバイザー
(2011年9月・10月・11月・12月)
- ・日高村地域福祉（活動）計画住民座談会アドバイザー
(2011年9月・10月、2012年2月・3月)
- ・土佐清水市斧積地区講演「地域福祉の今とこれから」（2011年9月）
- ・高知県法定民生委員児童委員協議会会長等研修会「民生委員として、災害への対応～東日本大震災発生時の対応とこれまでの経験をふまえて～」パネルディスカッション・コーディネーター（2011年9月）
- ・四国保育団体合同研究集会実行委員会学習会講演「子ども・子育て新システムの動向とゆくえ」（2011年10月）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座講師「社会保障制度改革の動向とゆくえ」（2011年11月）
- ・土佐市あったかふれあいセンター見守りマップづくりアドバイザー（2011年11月）
- ・佐川町健康福祉大会パネルディスカッション「みんなで福祉のまちづくり」コーディネーター（2011年11月）
- ・第38回障害者問題を考える四国集会実行委員長（2011年11月）
- ・土佐清水市地域福祉（活動）計画策定委員会アドバイザー
(2011年11月・2012年2月)
- ・日高村地域福祉（活動）計画作業部会アドバイザー
(2011年11月、2012年1月・3月)
- ・さわやかインストラクター四国ブロック「地域に合ったまちづくり in 四国」パネルディスカッション「誰もがいきいきと暮らすまち」コーディネーター
(2011年11月)
- ・土佐清水市社会福祉大会パネルディスカッション「絆」コーディネーター
(2011年12月)
- ・全国保育問題研究協議会地域セミナー（高知）実行委員長（2011年12月）
- ・安芸圏域あったかふれあいセンター職員意見交換会アドバイザー（2011年12月）
- ・日高村地域福祉（活動）計画策定委員会アドバイザー（2011年12月、2012年3月）
- ・高知短期大学法学サークル講演「住民主体のまちづくりと地域福祉（活動）計画」
(2012年1月)

- ・高知県視力障害者の生活と権利を守る会シンポジウム「大震災と視覚障害者支援はどうあるべきか」コーディネーター（2012年1月）
- ・安芸市地域福祉(活動)計画策定委員会アドバイザー（2012年2月）
- ・高知市一宮地区「支え愛の町づくり」住民ワークショップ・アドバイザー
(2012年2月)
- ・津野町郷地区講演「居場所づくりと住民主体の地域づくり」(2012年2月)
- ・医療生活協同組合職員研修講師「社会保障と税の一体改革って何？」(2012年2月)
- ・安田町東島地区見守り体制ネットワークづくり住民ワークショップ・アドバイザー
(2012年2月)
- ・中芸地域各市町村介護予防事業一般高齢者施策評価事業アドバイザー(2010年7月)
- ・香美市物部地区住民公開シンポジウム「合併後の地域再生を考える」基調講演「地域再生と住民主体のまちづくり」(2010年7月)
- ・中芸地域各市町村介護予防事業一般高齢者施策評価事業（リーダー研修）アドバイザー（2012年2月・3月）
- ・高知市上町高齢者優良賃貸住宅利用者・地域住民学習講演会「住民主体の居場所づくりと地域づくり」(2012年3月)
- ・高知県地域生活定着支援センター講演・報告会報告「高知県におけるホームレスと触法障害者の地域生活支援課題」(2012年3月)
- ・高知自治労連保育部学習会講師「子ども・子育て新システムについて」
(2012年3月)
- ・津野町郷地区地域福祉活動計画ワークショップ・アドバイザー（2012年3月）
- ・2012年国際女性デーかがわのつどい記念講演「近年の社会保障制度改悪の動向と問題点 ―社会保障・税の一体改革を中止に―」(2012年3月)

○総合評価と課題

・研究面では、限界集落に関するこれまでの研究成果をとりまとめることができたが、それ以外の制度研究や理論的研究を進展させることはできなかった。

2012年度は、これまでの限界集落に関する調査研究成果や地域福祉の共同研究成果の出版化を進めるとともに、社会保障制度研究や理論的研究も進展させたい。また、限界集落における個別支援に焦点を当てた継続課題（科研費共同研究）に取り組む。

・教育面では、講義に関しては、3回生以上については、学年が上がるにつれて、学生の学習能力が高まり、成績も上昇する傾向が見受けられた。しかし、2回生からは学生定員が多くなるとともに、学生の理解度の把握が難しくなっている面もある。人数が多くなるなかでも、個々人の理解度、習熟度の把握方法を工夫しながら、社会保障制度や福祉行財政に関する知識と理解能力、応用力を総合的に高めてゆけるような配慮が必要である。学生の知的好奇心を絶えず刺激しながら、各制度の個別理解と総合的理解の両面に配慮した授業を心がけたい。

卒論指導に関しては、4回生は主として地域福祉分野に関心をもっており、実態を調査して理論化してゆく力と現実問題に応えられる研究能力が身につけられるように配慮した指導を心がけたい。3回生は、自分の問題関心が比較的明瞭であるように見受けられる。文献研究の基本を身につけつつ、様々な地域福祉活動に関心をもって自分の問題関心を深め、卒論制作の下地づくりができるように配慮した指導を進めてゆきたい。

・社会的活動は、多くの市町村、地域、団体との関わりをもたせていただいたことにより、教育研究を進めてゆくための糧を得ることができた。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（1）論文（1件）

- ・長澤紀美子(2012)「イギリス福祉サービスにおけるベンチマーク型評価－自治体評価および事業者評価の展開と課題」
『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』61, p. 41-52.

（2）研究報告（4件）

- ・「イギリス新連立政権後の保健医療福祉政策：「第三の道」から「大きな社会」へと行政（業績）評価のゆくえ」 関東学院大学経済経営研究所「公共政策フロンティア研究会」
平成 23 年 10 月 15 日（K G U 関内メディアセンター）
- ・「イギリス連立政権下の行政評価・事業者評価の展開－P A F 廃止の背景とアウトカム評価」
平成 23 年 11 月 30 日（日本福祉大学健康社会研究センター名古屋キャンパス）
- ・「イギリス医療における患者・住民参加」イギリス医療福祉研究会
平成 23 年 12 月 18 日（名古屋・関内）
- ・国立社会保障・人口問題研究所ディスカッション・ペーパー・白瀬由美香論文「イギリスにおける介護サービス事業者の監査・評価制度－Care Quality Commission による質保証の意義と課題－」に対するコメンテーター
平成 24 年 3 月 26 日（国立社会保障・人口問題研究所）

（3）学外の競争的資金の獲得状況（5件）

- ①文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B一般）「利用者本位の介護サービスの提供に関する実証研究」（主任研究者：小山秀夫・兵庫県立大学教授）（平成21～24年度）における分担研究者
- ②平成23年度厚生労働科学研究費・老人保健健康増進等事業補助金（老人保健健康増進等事業分・特定非営利活動法人日本介護経営学会の会員分担研究）「イギリスにおける介護施設経営：評価基準・監査方法および情報公表制度の展開と介護施設に対する影響」
- ③厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）（H22-長寿-指定-008）「介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発」（主任研究者：近藤克則・日本福祉大学教授）（平成22～24年度）における分担研究者
- ④平成23年度厚生労働科学研究費・長寿科学総合研究推進事業補助金（国際共同研究事業）「高齢者の身体心理社会的な健康関連指標の日瑞英比較研究」（主任研究者：近藤克則・日本福祉大学教授）（平成22～24年度）における分担研究者
- ⑤関東学院大学・戦略的プロジェクト研究「ポストモダンのもとの新たな公共による地域政策に関する研究」（主任研究者：大住莊四郎・関東学院大学教授）（平成22～24年度）における分担研究者

（4）研究報告書（3件）

- ・長澤紀美子（2012）「イギリスにおける介護施設経営：評価基準・監査方法および情報公表制度の展開と介護施設に対する影響」（上記競争的資金②分担研究報告書）
- ・長澤紀美子（2012）「イギリス福祉サービスにおけるケアの質評価の展開と課題」（「介護保険の総合的政策評価ベンチマーキングシステムの開発」；上記競争的資金③分担研究報告書）
- ・長澤紀美子（2012）「イギリスに学ぶ保健医療福祉領域のベンチマークの成果と課題」（「高齢者の身体心理社会的な健康関連指標の日瑞英比較研究」；上記競争的資金④分担研究報告書）

（5）学会での司会

- ・「第21回アジア・太平洋ソーシャルワーク会議：ソーシャルワークの新たな地平：共生と連帯」早稲田大学国際会議場 2011年7月17日(17A-PA-E5)“Poverty” 共同座長

（6）資料

- ・一般社団法人・精神保健福祉士養成校協会（編）（2011）「現代社会と福祉」『精神保健福祉士国家試験・模擬問題集2012』中央法規p.123-127（問題編）,p.121-126（解答編）

○教育活動

（1）学部

- ・「現代社会と福祉」「国際福祉論」「国際福祉論Ⅱ」「女性福祉論」「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」
- ・オムニバス：「ジェンダーと生活」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」受講者3名、「福祉研究演習Ⅲ」受講者4名

（2）大学院人間生活学研究科

- ・「国際福祉政策論」／オムニバス：「人間生活福祉政策論」
- ・副指導教員としてM2生1名を担当。

○委員会活動

【全学】全学国際交流委員長

【学部】学部総務委員長・予算委員長

【大学院】大学院人間生活学研究科学位審査委員長・大学院選出国際交流委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・第二次「高知県DV被害者支援計画」策定委員会策定委員
- ・高知県佐川町公文書開示審査会委員、高知県佐川町個人情報保護審査員

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

昨年同様、「女性福祉論」の中で、支援の現場（県女性相談支援センター、こうち男女共同参画センター「ソール」等）の視察や支援者とのディスカッションの場を設定し、女性の生活課題を体験的に理解する機会を設けた。

「現代社会と福祉」では、国立ハンセン病療養所MSWの卒業生を授業に招き、患者を取り巻く偏見や社会復帰の困難さ、支援のやりがいと難しさなど学生との間で双方向的な質疑の場を設定した。

また新藤講師と共に担当し、昨年度までの学長特枠研究と連動した「国際福祉論Ⅱ」や「国際福祉論」において、昨年度の受講生が開発した開発教育ワークショップを行い、タイ国の国際ソーシャルワーク研修に向けた事前学習の一部とした。

（2）研究活動について

8月にイギリスを訪問し、イギリスのケア監査機関や自治体福祉サービス担当者、介護事業者等へのヒアリングを行い、外部資金報告書や学外研究会等において報告した。政権交代により制度改変が進むイギリスの情報を整理するとともに、日本の政策課題との比較分析を深めることが今後の課題である。

（3）学内業務について

全学国際交流委員長として2年目を迎えた今年度は、南新学長のリーダーシップのもと、新たな国際交流活動を展開できた。特記すべき事項としては以下のとおりである。

①2月～3月にかけて学長・他学部国際交流委員と共に、今後の国際交流の推進に向けてアメリカの5大学を訪問した。内1校（カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校看護学部）との協定締結を行った。またニュージャージー州立大ラトガーズ大学とは、社会福祉学部教員との意見交換をおこなった。

②社会福祉学部生の日常的な国際交流の機会の拡大

学部選出国際交流委員（後藤准教授）や1回生学年担当教員の協力をえて、エルムズ大学短期留学生受入時には学生主催の歓迎会や介護コースの手浴体験などの交流プログラムや中国・台湾留学生への送別会を実施した。また1～2回生学年担当教員の協力もえて、エルムズ大学短期派遣留学（2月）に10名の定員に対して、社会福祉学部からは6名が参加した。

（4）社会的活動

「高知県第二次DV被害者支援計画」策定に関わり、女性福祉行政担当者や支援団体との意見交換ができたことが大変勉強になった。

林 美 朗

Yoshiro HAYASHI

○研究活動

- 学会活動： 下記第 58 回日本病跡学会総会理事会出席（2011. 6. 17、宇都宮）
- 学会発表： ・南海の孤高の画家・田中一村（第 58 回日本病跡学会総会、2011. 6. 18、宇都宮）
- ・Buddhism Temple in Japan and Mental Hospital（第 15 回世界精神医学会議（WPA）2011. 9. 18、ブエノスアイレス、アルゼンチン）
- ・橋流れて水流れずグリーンケアにおける迷妄を打破する法話（精神療法）のためにー（第 34 回日本精神病理・精神療学会、2011. 10. 14、名古屋）
- 修会参加： 芸術療法研修会プライマリーコース（2011. 9. 3）
- 発表論文： ・Oribe FURUTA（日本芸術療学会誌 Vol. 41 No. 2）54-61.
- ・Temple in Japan and Mental Hospital（Psycho-social Welfare）（高知県立大学紀要社会福祉学部編第 61 巻）170-180.

○教育活動

- 担当科目： 精神医学、精神保健学、人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス、福祉研究演習、地域福祉活動 他
- 「地域福祉活動」： 見学旅行引率
- ①（2011. 11. 5）大阪市天王寺、近江八幡ボーダーレス美術館
- ②（2011. 2. 25）大阪応徳院自分感謝祭

○委員会活動

- 人権委員会委員長
健康管理センター運営委員

○社会的活動

- 学外地域貢献： 細木ユニティ病院非常勤医師
金城学院大学・北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤講師
(集中講義)
四万十市渡川病院非常勤医師（2011 年 5 月～2012 年 3 月）
- 在家僧侶活動： ～八正会依頼
1. 城市家 7 年忌法要（H23. 5. 22）浦和桜聖地霊園
 2. 須藤家 7 年忌法要（H23. 7. 9）横浜メモリアルガーデン霊園
 3. 川岸家納骨新盆（H23. 7. 10）草加第二聖地霊園
 4. 斎藤家釜入れ前略葬儀・拾骨（H23. 7. 10）横浜市南部斎場
 5. 沼倉家新盆・納骨・7 年忌（H23. 8. 6）草加第二聖地霊園
 6. 久米川家 1 周忌・心牌・納骨・仏像開眼（H23. 8. 6）さいたま聖地霊園
 7. 萱場家 13 年忌・7 年忌（H23. 8. 7）さいたま聖地霊園
 8. 望月家 1 周忌（H23. 8. 21）エクセレント八王子霊園

○総合評価と今後の課題

赴任3年目にしては、新しい環境でかなり研究活動ができたように思われる。しかし高血圧とパーキンソンで体調が悪く、その不調を押して参加した学会発表や遠くアルゼンチンまで遠征して発表した国際会議の成果が今のところまだ活字として残せていない（一部は同人誌その他に発表）のは残念としか言う他ない。また11月頃の大阪応徳院、近江八幡ボーダーレス美術館への見学旅行の引率も結構大変だった。平成24年度は、担当授業科目も増えるし、新しい役職も任される。非常勤医師勤務先の病院も変わる。在家僧侶活動も数が増えるだろう。健康には十分留意し精進して、研究活動中心に（科研費取得は絶対の天命）猶頑張りたい！

○研究活動

○教育活動

講義

(1) 「コンピュータリテラシー」(共通教育情報科目)

池キャンパスの本部・健康栄養学部棟2階と共用棟2階に新設された情報演習室において、前期に池キャンパス3学部の新生を対象とした5クラス(看護学部2、社会福祉学部2、健康栄養学部1)を担当した。前年度まで担当していた永国寺キャンパスの文化学部4クラスの授業は生活科学部の教員が担当することになった。授業では、大学での学びにパソコンを活用できるように、ワープロソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト Power Point の基本的な操作を中心に実習形式で行った。授業のテキストを前年度から替えて内容を一新し、毎回の授業で補助教材として使用するプリント教材もテキストに合わせて作り直した。

(2) 「社会福祉特別演習 I」(社会福祉学部専門科目)

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として、Word、Excel、Power Point の操作のステップアップ、特に Power Point を用いたプレゼンテーションに力点をおいて実習形式の授業を後期に行った。

(3) 「特別講義 V (データ解析論)」(大学院人間生活学研究科共通科目)

生活科学部谷本教授と分担して担当し、主として Excel の統計関数を用いた相関分析・回帰分析やピボットテーブルによるクロス集計に関する実習形式の集中授業を行った。

○委員会活動

(1) 部局長会議、教育研究審議会

法人化にともない設置された部局長会議と教育研究審議会の委員となり、社会福祉学部長として大学運営に参画。

(2) 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、部局長会議や教育研究審議会の審議内容や決定事項を報告して周知すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

(3) 学部人事検討会

学部人事検討会委員長として、社会福祉学部の人事案件をまとめて部局長会議、教育研究審議会に提案し、3件の教員公募を実施した。また、教育研究審議会のもとに設置される人事委員会(学部教員3名と教育研究審議会2名で構成)の委員長として、応募者の審査を行ない、2名の候補者を選定したが、1名については適任者を見いだせなかった。

(4) 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、2012年度入学試験の円滑な実施に努めた。また、県内外で開催された進学相談会に出席して、社会福祉学部の PR と志願者の確保に努めた。

○社会活動

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、2002年度に学部長就任して以来、研究活動は休眠状態である。2011年度で学部長を10年間務めたことになるが、社会福祉とは全く異なる専門分野を持つ学部長としての限界を様々な面を感じている。

男女共学化された高知県立大学の社会福祉学部となった2011年度は、初めて男子学生が10名入学するとともに、教員も入学定員増にともなう教員増により8名の新任教員が加わり24名となった。教員が12～13名であった入学定員30名の時代からすると教員数は約2倍となり、それも今年度に急激に増えたため、教員組織としては試運転の年度であったと思う。学部拡充により大きくなった教員組織がベクトルを同じくして組織的に活動し、教育・研究において最大限の力を発揮できるように学部体制を整えていくことが課題である。

丸 岡 利 則

Toshinori MARUOKA

○研究活動

（1）論文

- ・丸岡利則（2012）「レジデンシャル・ケアの再構成」（高知県立大学 社会福祉学部紀要）第61巻、53-68頁

（2）学会発表

なし

（3）研究会

- ・丸岡利則（2011）発表「ソーシャル・ケア研究会」（於：大阪人間科学大学与那嶺研究室） ※2012年度出版予定原稿「ソーシャル・ケアにおける人間関係」の要旨発表
- ・丸岡利則（2011）発表「レジデンシャル・ソーシャル・ワーク研究会」（於：武庫川女子大学竹内研究室） 「レジデンシャル・ワークとソーシャル・ワークの原理」について発表

○教育活動

学部担当科目

1. 「相談援助の基盤と専門職」
2. 「相談援助演習」
3. 「相談援助実習指導」
4. 「相談援助実習」
5. 「看護と福祉の世界（後期・担当1回／15回）」

○委員会活動

1. （全学）共通教育専門委員
2. （全学）災害対策プロジェクト委員
3. （学部）図書委員、倫理審査委員、教務委員

○社会活動

1. 委員等
 - ・社会福祉法人あけぼの福祉会（監事）2003年3月～
 - ・高知県社会福祉協議会日常生活支援事業契約締結審査会委員長 2011年11月～

○公開講座等

1. 高知県立大学社会福祉学部「オープンキャンパス体験授業①」講師「ボランティアとは何かーボランティアリズム概念の整理から始まる理論福祉学」
2011年7月31日(日)
2. 高知県立大学社会福祉学部「リカレント教育講座③」講師「社会福祉とは何かー社会福祉学の原理」2011年11月26日(土)

○総合評価と今後の課題

惟えば2011年4月からの赴任で、教育と研究、そして大学運営などについて、洵に環境面で暫くカルチャーショックを受け、それに慣れるまで苦勞した。

教育については、少数の学生への対応だったので、それほど混乱はなかった。後期には、心勞から回復し、ようやく授業の準備ができる時間がもてるようになったので、教育には、剴切ながら研究の裏付けが必要だということを寔に実感した。特に、ソーシャル・ワークの原理を自分なりに深く再認識できる環境と時間を与えられたことに感謝している。

研究面では、「理論福祉学」という固有の分野の研究成果をまとめる時期が到来したと考えている。そして、今も茲に當為執筆中であるが、次年度に持ち越さざるを得なかったのは、不徳の致すところである。

今後の課題は、跪きながらメタ・クリティークという独自の福祉学の論攷から導いた「理論福祉学」の成果を世間に懇えたいと考えている。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（１）論文

- ・宮上多加子（2012）「離職者を対象とした介護福祉士養成事業における社会人学生の経験－離職者訓練生と介護雇用プログラム生の比較－」『中国・四国社会福祉研究』創刊号.
- ・河内康文・宮上多加子（2012）「介護雇用プログラムにおける現場指導者の認識と対応－事業初期における現場指導者のとまどいに焦点をあてて－」『中国・四国社会福祉研究』創刊号.

（２）報告

- ・黒田しづえ・宮上多加子・石川由美「ケア理論を使った地域ケア連携の取り組み」高知県立大学紀要社会福祉学部編，61, 163-173.

（３）学会発表

- ・宮上多加子：離職者を対象とした介護福祉士養成教育における社会人学生の学びの構造－訓練生とプログラム生の比較－，第19回日本介護福祉学会大会（東京），2011年9月.
- ・宮上多加子・河内康文：離職者を対象とした介護福祉士養成教育における社会人学生の認識－プログラム生に対する個別面接調査に基づく質的分析－，日本社会福祉学会中国・四国部会第43回大会（高知），2011年7月.
- ・河内康文・宮上多加子：介護雇用プログラムにおける現場指導者の認識と対応－事業初期における現場指導者のとまどいに焦点をあてて－，日本社会福祉学会中国・四国部会第43回大会（高知），2011年7月.

○教育活動

講義の概要

[学部]

（１）「介護過程Ⅰ」

2011年度から開講した介護福祉コース2回生（前期）の授業である。ナイチンゲールの看護論に基づく「KOMI理論」の基礎と、介護過程の概要について講義した。

（２）「認知症の理解Ⅰ」「こころとからだのしくみⅡ」「発達と老化の理解Ⅱ」「生活支援技術Ⅳ」

いずれも、2011年度から開講した介護福祉コース2回生（後期）の授業である。各科目の内容を整理し、関連づけた授業方法を工夫していく必要がある。

（３）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

研究活動に関する基礎的な力を身に付けることを目標として、少人数ゼミで継続的な指導を行った。いずれの科目も受講者3名であった。なお、演習の内容と成果については、ゼミ記録として冊子にまとめた。

（４）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」

ゼミ生を中心とした少人数の受講者であったが、学外の病院・施設の見学や学会への参加等を通して、実践的な内容について理解を深める工夫をした。

（５）「保育学（実習および家庭看護を含む）」

生活科学部にて開講されている科目であり、オムニバスで担当した。

[大学院（人間生活学研究科）]

(1) 「介護福祉論」

介護福祉に関係した理論や研究論文の紹介，介護・看護現場における新しい取り組み等を通して，介護福祉学が果たす役割と課題に関する検討を行った。

(2) 論文指導

正指導教員としてM1生1名，M2生1名，副指導教員としてM2生2名を担当した。大学院(M)研究員は4名を受け入れた。修士論文作成に関するディスカッションの場として，院生だけでなく大学院研究員の参加も募り，大学院ゼミを毎月1～2回開催した。

[大学院（健康生活科学研究科）]

正指導教員としてD1生1名，副指導教員として，院生6名を担当した。

○委員会活動

[全学]

教育研究審議会
地域創成センター長
広報委員長
大学院見直し検討委員会委員
JICAプロジェクト委員

[学部]

学部人事関係検討会／自己点検評価委員会
学部倫理審査委員会委員

[大学院（健康生活科学研究科）]

入試実施委員

○社会的活動

高知市民生委員推薦会委員
高知県福祉基金理事
高知県医療審議会委員
高知県介護・福祉分野雇用検討委員会委員
県立高等学校再編振興計画検討委員会委員
日本認知症ケア学会四国地域部会委員

○公開講座等

高知県身体障害者(児)施設協会生活部会研修会講師（2012年3月）

○総合評価と今後の課題

大学全体としては，法人化に伴い運営体制が整備される中で，地域創成センター長と広報委員長としての任務にあたり，地域貢献を推進していく組織と人材の必要性を痛感しました。

教育面および研究面においては，介護福祉コースの専門教育科目が本格的に開講されたことで担当科目数が多くなりました。今後は研究面での成果を教育に反映していく工夫をしながら，教育と現場のケアをつなぐような活動ができればと考えています。

黒田 しづえ

Shidue KURODA

○研究活動

（1）論文

黒田しづえ・宮上多加子・石川由美：報告「ケア理論を使った地域ケア連携の取り組み」，高知県立大学紀要社会福祉学部編，第61巻，pp,136-173，（2012）

（2）学会発表

なし

○教育活動

講義の概要

1. 「こころとからだのしくみ I」
2. 「発達と老化の理解 I」
3. 「社会福祉入門演習」
4. 「社会福祉基礎演習」
5. 「生活支援技術 III」
6. 「介護過程 II」
7. 「介護福祉実習 I」
8. 「介護福祉実習 II-①」
9. 「介護技術」
10. 「看護と福祉の世界」（オムニバス）

○委員会活動

全学：紀要委員会委員長

学部：学生委員会、実習委員会、1回生学年担当

○社会活動

2011年9月「平成23年度 介護福祉士国家試験対策講座」こころとからだのしくみ
①・生活支援技術・介護過程 講師

○公開講座等

1. 2011年7月31日「オープンキャンパス体験授業、介護機器体験・サバイバルクッキング体験」
2. 2011年10月15日 高知県立大学社会福祉学部「リカレント教育講座、ケアのルーツを訪ねて - F・ナイチンゲールに学ぶ介護論 -」講師
3. 2011年11月14日健康栄養学部FD研修会「映画「病気は回復過程である」に見るケアと食事」講師

○その他

1. こうち介護の日 2011（高知中央公園）「プチリラクゼーション体験」2011年11月

○総合評価と今後の課題

昨年度から開始となった介護福祉コースも2年目を迎えました。本学の法人化と共に男女共学となり、介護コースにも3名の男子学生が18名の女子学生に交じって授業に演習にと取り組みました。また、介護コース1期生の17名との交流の機会を持つなど、今後の実習や学習を効果的に円滑に進めるために教員が一丸になって進めた1年間でした。

介護現場実習も4月の前期開講に合わせてスタートし、1人の学生に9～10か所という過酷とも言える状況ではありましたが、1人の脱落者もなく無事に終了することができました。また、3月の実習Ⅱ－①についても同様に終了しました。どこの実習先においても高い評価と近い将来のマンパワーとしての大きな期待を寄せていただき、責任を実感しています。

次年度は、年3回予定している介護コースの実習が全面的に始まります。学生も1回生から3回生までのフルメンバーとなります。今まで以上に内容の充実が求められるものと考えています。

次に、14期生の学年担当教員としましては、男子学生10名を含め、76名でスタートしました。これまでに学年間交流会や学園祭で、今までとは一味違うパフォーマンスを展開しました。今後も男女共学の良さを発揮しつつ、充実したキャンパスライフが送れるよう支援に努力したいと考えています。

後藤 由美子

Yumiko GOTO

○研究活動

（1）論文

なし

（2）報告書

- ・後藤由美子・中井久子・カルロス（2011）「E P A（第1期）看護師・介護福祉士候補者受け入れ等に関する調査」報告書
- ・後藤由美子・中井久子・カルロス（2011）「定住フィリピン人介護士の現状と課題に関する調査」報告書

（3）著書

- ・黒田健二・清水弥生・佐瀬美恵子編著（2011）『高齢者福祉概説』（第3版）明石書店、分担執筆

（4）学会発表

- ・後藤由美子「高齢者施設における外国人介護職の現状と課題-フィリピン人介護士を中心に-」第15回日本健康福祉政策学会しが学術大会, 2011年12月

（5）研究資金の導入

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「生活支援職における異文化コミュニケーション教育研修プログラムの開発」（研究代表者）（平成21年～23年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「地方都市・過疎地域における外国人介護者定着促進のための学術的研究」（研究分担者）（平成23年～25年度）

○教育活動

（1）担当科目

- ・「介護の基本Ⅰ」
- ・「介護の基本Ⅱ」
- ・「生活支援技術Ⅰ」
- ・「介護総合演習Ⅰ」
- ・「介護実習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「福祉研究演習Ⅲ」
- ・「社会福祉特別演習Ⅲ」
- ・「介護実習Ⅱ」

* 「社会福祉特別演習Ⅲ」では、介護現場の専門職、家族介護者、また介護を受けている当事者をゲストスピーカーとして招いた。

○委員会活動

全学：国際交流委員、健康長寿センター運営委員

学部：実習委員、学生委員（第12期生学年担当）

○社会的活動

- ・健康長寿体験型セミナー「認知症とその理解－安心して暮らせるために－」企画・実施展示ブース担当「私の老後の生き方暮らし方ノート」高知県立大学永国寺キャンパス（6月）、土佐市地域包括支援センター（2012年1月）
- ・高齢者及び視覚障がい者の海外旅行（フィンランド）サポーター（8月）
- ・こうち介護の日2011「プチリラクゼーション」高知市中央公園（11月）
- ・市内特別養護老人ホーム「高齢者虐待防止」研修会講師（11月）
- ・介護職員基礎研修講師

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動

今年度は介護福祉士養成2年目に入り、介護福祉実習を前期に週3日と後期集中の期間で実施しました。全体としては実習先と連携が図られ、実習指導を行うことができたと思います。今後は、さらに各実習段階の実習目標の内容から教育効果を踏まえた期間の検討が必要と考えます。

卒論指導では、多様な研究課題に取り組めるよう地域や関係機関の活動に学生と共に積極的に参加をしていきたいと考えています。

学年担当としては、進路等に関する支援としてキャリアセンター（ワクワク Work!!）の開催講座を学生に連絡し、講座への参加の呼び掛けと希望進路の調査を実施しました。また、学部既卒者による就職セミナー、4回生による就職活動・国家試験対策などの情報収集の場への出席を促しました。次年度は学部の先生方の協力を得て学生との個別面談等を実施し、国家試験対策や就職活動への支援をしていきたいと思っています。

（2）研究活動

研究の面では、科学研究費の最終年度分について報告書を作成しました。また、今年度からの研究については、四国地域を基盤に調査を行い、介護福祉人材に関する研究を進めていきたいと思っています。

（3）その他

学内の委員会活動においては、学部の先生方、学生の協力を得て、エルムズ大学の留学生や中国、台湾からの留学生との交流ができました。学部からもエルムズ大学に6名の学生が短期留学をしました。

今年度は高知県介護福祉士会の活動として、介護職員研修等に関わる機会を得ました。また、その他研修会等に関わることにより、介護福祉人材の育成、地域社会活動に積極的に参画し、地域社会に貢献できるよう努力していきたいと思っています。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

（１）学術論文

- ・鈴木孝典「精神障害者グループホームにおける支援評価ツールの開発的研究」『大正大学大学院研究論集』No. 36、2012. 3、pp. 165-174.

（２）著書

- ・鈴木孝典「精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』中央法規出版、2012. 2、pp. 197-237.
- ・鈴木孝典「居住支援の実際と精神保健福祉士の役割」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 7 精神障害者の生活支援システム』中央法規出版、2012. 2、pp. 131-138.

（３）その他

- ・鈴木孝典「事例 15 居住支援」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』中央法規出版、2012. 2、pp. 251-255.
- ・鈴木孝典「事例 15 居住支援」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）教員用指導ガイド』中央法規出版、2012. 2、pp. 84-85.
- ・鈴木孝典「グループホーム（共同生活援助）・ケアホーム（共同生活介護）・福祉ホーム」「ショートステイ」精神保健福祉白書編集委員会『精神保健福祉白書 2012 年版-東日本大震災と新しい地域づくり』中央法規出版、2011. 12、pp. 50-51.

（４）競争的資金の獲得

科学研究費補助金（若手(B)、課題番号:22730440、平成 22 年度-24 年度)

研究代表者：鈴木孝典

研究課題名：「精神障害者グループホームにおける支援評価モデルの開発的研究」

○教育活動

（１）講義

[学 部]

1. 「精神保健福祉論」
2. 「精神保健福祉援助実習」
3. 「精神保健福祉ふれあい実習」
4. 「精神保健福祉援助演習」
5. 「福祉研究演習Ⅰ」
6. 「福祉研究演習Ⅱ」
7. 「福祉研究演習Ⅲ」
8. 「社会福祉特別演習Ⅳ」

[大 学 院]

1. 「人間生活論演習Ⅱ」
2. 「障害者福祉論」
3. 「精神保健福祉論」

(2) 講義以外

1. 実習支援

精神保健福祉援助実習の配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」、「精神保健」、「精神医学」の3教科にかかわる受験対策講座を開講した。

○委員会活動等

(1) 学部

1. 実習委員
2. 情報処理委員
3. 入試実施委員

(2) 大学院

1. 人間生活学研究科学務委員

(3) 全学

1. 総合情報センター情報処理部会員
2. 入試実施委員（センター試験部会委員）

○社会的活動

(1) 委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会役員（運営委員）（2008年4月～）
2. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
3. 高知県自立支援協議会委員（2009年2月～）
4. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会員（2010年4月～）
5. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
6. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
7. 高知県精神障害者アウトリーチ推進事業評価検討委員会 委員（2012年3月～）
8. 高知市障害者計画等推進協議会 副会長（2010年4月～）
9. 高知市自立支援協議会 事務局（運営）会議 メンバー（2010年4月～）
10. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
11. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 教育委員会 委員
(2011年4月～2012年3月)
12. 日本精神保健福祉学会 事務局員（2011年6月～）

(2) 講演等

1. 高知県精神保健福祉士協会新人研修会 助言者（10月15日、11月26日）
2. 医療法人精華会海辺の杜ホスピタル P S W研修会「記録の方法」講師（9月21日）
3. 高知市相談支援事業所生活支援検討会 助言者（1月23日）

(3) 学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

今年度は、昨年度からの教育課題である、ティーチング・ポートフォリオを活用した教育内容の評価と改善を継続して実施した。具体的には、リアクションペーパーによる学習自己評価、中間的効果測定による理解度評価、課題演習による習熟度評価、の三段階による授業評価ポートフォリオを作成し、昨年度のポートフォリオに基づく授業の改善目標と今年度のポートフォリオとの比較から更なる授業の改善点の抽出に努めた。

来年度は、授業評価ポートフォリオを引き続き運用するとともに、精神保健福祉士新カリキュラムに対応した授業を展開するために、新カリキュラムの内容及び新テキストの記載を分析しつつ、授業内容、使用する教材（視聴覚教材を含む）及び配布資料の改訂を進めたい。

（２）研究活動について

今年度は、新たに獲得した科学研究費補助金を活用し、コンピューターを活用した評価支援ツールである「精神障害者グループホーム評価支援ツール（第1版）」（以下、「評価支援ツール」）を開発し、そのパイロットスタディを3ヶ所のグループホームの協力を得て開始した。また、パイロットスタディの結果を踏まえて、評価支援ツールの修正を図った。来年度は、東京都及び神奈川県におけるグループホームの連合組織に調査協力を行い、評価支援ツールの適切性と利便性の向上のための大規模なフィールドテストを実施する予定である。

また、今年度は、研究者の立場から高知県自立支援協議会人材育成部会にメンバーとして参加し、相談支援専門員の研修体系の構築に向けた調査研究活動を企画、実施した。具体的には、高知県が実施する相談支援従事者初任者研修の受講者に対して、研修内容の評価のためのアンケート調査を企画し、実施した。その上で、調査で得られたデータを統計的手法によって分析、考察し、その成果を高知県自立支援協議会に報告した。来年度は、人材育成部会において、同様のアンケート調査を四国4県で実施する予定である。その調査データを統計的手法によって比較検討し、高知県の相談支援従事者研修の内容及び受講者の特性について明らかにしたい。

（３）学内業務について

まず、学部情報処理部会員として、学部総務委員長の長澤教授、同じく情報処理部会員である鈴木裕介助教及び学部事務補助職員である杉村氏による強力なサポートにより、学生増に対応した情報処理機材の充実を図るとともに、学部共有パソコンのセキュリティ対策の強化を図ることができた。来年度は、物理的な側面から学内ネットワークのセキュリティ対策を継続して図るとともに、教員、学生、大学院生に対して情報処理機材のセキュリティ意識の向上のための活動を強化したい。

また、今年度は、精神保健福祉士法の改正に伴う大学等確認申請に係る業務を、住友教授、稲垣助教及び川渕学生課長と協働して行った。その結果、修正なく、厚生労働省に確認申請書が受理された。来年度は、新カリキュラムに対応した精神保健福祉士養成教育の体制を整えるとともに、配属実習先の拡充を図っていきたい。

（４）社会的活動について

今年度は、高知県及び高知市の障害者計画及び障害福祉計画に係る協議会に委員の立場で参加し、その新計画の策定に寄与することができた。くわえて、高知県自立支援協議会人材育成部会、高知市自立支援協議会事務局（運営）会議及び同市生活支援検討会への参画を通して、教育と研究の両面から地域の相談支援専門員の養成及び実践力の向上に寄与することができた。来年度は、障害者自立支援法の改正に伴う、障害者の地域相談支援体制の変化を踏まえつつ、今年度の活動を発展させたい。

さらに、今年度は、日本精神保健福祉学会の事務局員として、精神保健福祉学の構築のための学際的な研究組織の創設と組織強化のための活動に参画することができた。来年度は、6月29日に予定されている同学会第1回学術研究集会の開催に向けた準備を事務局の立場から進めたい。

西 内 章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

・学会報告

1. 西内章・山中福子・廣内智子・宮武陽子（2011）「保健医療福祉職者が認識する多職種専門職チームの活動に関する実態—高知県下の保健医療福祉関連機関に所属する専門職者を対象に」日本保健医療福祉連携教育学会，2011年11月5日（神奈川県立保健福祉大学）
2. 長澤真由子・西内章・溝渕淳（2011）「独立型社会福祉士の職務実態とニューズ—ソーシャルワークの固有性にねざした独立型社会福祉士開業システム構築に向けて」日本社会福祉学会第59回大会（淑徳大学、2011年10月9日）

・研究会

1. ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（研究代表 関西福祉科学大学大学院 太田義弘教授）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った。
2. コンピュータアセスメント支援ツール「チームアセスメント支援ツール」（共同研究者 桃山学院大学 丸山裕子教授、広島国際大学 山口真里講師）との研究開発を行った。
3. 独立型社会福祉士事務所の専門性について、同朋大学 小柴住まゆ子講師を研究代表として調査研究を行った。

○教育活動

[共通教育科目]

- ①「土佐の健康と福祉」

[学 部]

- ①「事例研究法」
- ②「相談援助の理論と方法」
- ③「相談援助演習」
- ④「社会福祉ふれあい実習」
- ⑤「相談援助実習指導」
- ⑥「相談援助実習」
- ⑦「福祉研究演習Ⅰ」
- ⑧「福祉研究演習Ⅱ」
- ⑨「福祉研究演習Ⅲ」

[大学院人間生活学研究科]

- ①ソーシャルワーク論
- ②人間生活論演習Ⅱ

○委員会活動

- ① I P Eプロジェクト委員会委員
- ②大学院人間生活学研究科広報委員
- ③大学院人間生活学研究科入試連絡委員
- ④高知県立大学社会福祉研究個人情報保護・倫理専門審査委員会委員
- ⑤社会福祉士実習資格責任者
- ⑥学部教務委員

○社会的活動

[学外での活動]

- ・高知県社会福祉協議会生きがい健康づくり推進協議会委員
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・社会福祉法人 コージー南国知的障害者通所授産施設なんこく第三者委員

[研修会講師・講演]

- ・中土佐町高齢者虐待防止学習会・講師「高齢者虐待における家族の支援について」
中土佐町地域包括支援センター（12月7日）
- ・中土佐町久礼小学校校内研修会・講師「スクールソーシャルワークの専門性と支援方法ー組織で対応するためにー」（11月9日）
- ・2010年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」担当

○総合評価と課題

今年度も、社会福祉士養成に関連する四国厚生支局への書類届出、社会福祉士実習体制の構築が業務の中心になった。社会福祉士70名分の実習体制を作ることは容易ではない。学部の体制もさることながら、実習先となる社会福祉施設・機関の理解、協働・連携が欠かせない。

他方で、I P E（inter-professional education）プロジェクトの活動については、月1～2回程度継続的に文献検討、教育カリキュラムの検討を行った。その結果、2012年度より、I P 科目を実施予定となった。これについては、他大学でもみられるが、教育内容は多様であり、試行錯誤を繰り返しながら、本学独自のI P Eを構築する必要があるため、今後、授業を実施し、継続的な評価・修正を行う必要がある。

大学院の広報活動では、人間生活学研究科の広報誌「voice」、大学院研究者紹介広報誌「ラボ読本」を作成できた。これは、ひとえに大学院生や修了生、先生方の協力と、大学院の事務担当者の尽力である。

また、研究活動においては、科学研究費補助金・若手研究Bによる研究を引き続き取り組み、まとめていきたいと考えている。2012年度は高知県の地域福祉の特性と課題に取り組む予定である。そして、これまで参加している研究会活動として、①コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発、②チームアセスメント支援ツールの検証作業を継続的に取り組む予定である。

上白木 悦子

Etsuko KAMISHIRAKI

○研究活動

1. 原著

- 1) S. Maeda, E. Kamishiraki, L. J. Starkey, K. Ehara. (査読あり)
Patient Safety Education at Japanese Nursing Schools: Results of a Nationwide Survey. BMC Research Notes 2011, 4:416 doi:10.1186/1756-0500-4-416

2. 著書

- 1) 上白木悦子. 第2章 保健医療サービスの担い手を理解する「各医療専門職の役割」
村上・横山編：社会福祉士養成 新カリキュラム・テキスト 保健医療サービス 第2版. 久美出版, 14-20, 2011.

3. 報告書

- 1) 上白木悦子、前田正一、池田典昭. 平成21年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）総合研究報告書「診療関連死における剖検に関する実態および意識調査」（H21-医療-一般-009），2011.
- 2) 前田正一、金川理佳、上白木悦子. 平成23年度日本医師会総合政策研究機構「採血時に生じた有害事象への対応に関する実態調査」，2011.

4. 学会発表

- 1) E. Kamishiraki, S. Maeda, L. J. Starkey, N. Ikeda. (査読あり)
Medical error and autopsy in Japan: a Nationwide Study regarding views of the public and physicians. ISQua's 28th International Conference (Hong Kong, China) 2011.
- 2) S. Maeda, L. J. Starkey, E. Kamishiraki. (査読あり)
A Nation-wide Survey of Japanese Public University Nursing Schools Regarding Patient Safety Education: Widespread Adoption but Superficial Coverage. ISQua's 28th International Conference (Hong Kong, China) 2011.

5. 競争的資金等の獲得状況

- 1) 平成23年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（若手研究（B））「判断能力を欠く在宅患者の終末期医療：関係者の治療方針についての意識の分析」における研究代表者【交付決定額】総額4,290,000円
- 2) 日本医師会総合政策研究機構「採血時に生じた有害事象への対応に関する実態調査」（主任研究者：前田正一・慶應義塾大学大学院准教授）における共同研究者【交付決定額】総額2,500,000円

○教育活動

1. 学 部

- ・医療福祉論
- ・ケアマネジメント論
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・相談援助実習
- ・看護と福祉の世界
- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導
- ・福祉研究演習Ⅲ
- ・福祉研究演習Ⅰ
- ・福祉研究演習Ⅱ

○委員会活動

1. 全 学

- 1) 健康長寿センター運営委員
- 2) 入試実施委員
- 3) 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会看護・社会福祉連携部会委員
(平成 23 年 6 月～)

2. 学 部

- 1) 実習委員
- 2) 研究個人情報保護・倫理審査委員
- 3) 学生委員（第 13 期生（平成 22 度入学）学年担当）

○社会的活動

1. 高知県社会福祉士会理事

- 1) ケアマネジメント委員会研修会「成功事例から学ぶソーシャルワーク」におけるスーパーバイザー（日程：平成 23 年 8 月 21 日，会場：高知市障害者福祉センター）
- 2) 社会福祉士国家試験全国統一模擬試験担当（日程：平成 23 年 10 月 16 日，会場：高知県立大学）

2. 高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会主催 地域医療連携コーディネーター養成研修

「模擬カンファレンスを通して他職種 of 専門性を理解する」における講師（日程：平成 24 年 2 月 29 日，会場：高知医療センター）

○自己評価

1. 研究活動

平成 23 年度の研究活動は、主として、診療関連死における患者・医療従事者の認識・実態に関する研究、および、終末期医療における患者の自己決定とそれに対する医療ソーシャルワーカーの役割に関する研究であった。

後者については、平成 23 年度科学研究費助成事業（上記、競争的資金等の獲得状況の項）によるものであり、1 年目にあたる平成 23 年度は、質問紙調査を実施した。

2. 教育活動

1) 講義・演習においては、クライアント（または患者）の尊厳や自己決定に関わることを軸に、これらの現状・諸問題につき、学生自らが考えられるようになることを目的として授業を展開した。この点の成果については、学生からの評価も踏まえ、今後の授業展開へつなげたいと考える。

2) 福祉研究演習においては、3名の学部生（4回生2名および3回生1名）の卒業論文作成の指導を行った。指導に際しては、研究方法や研究倫理の問題について教授し、学生に基礎知識を備えてもらいたいと考えていたが、時間の問題等から、成果は必ずしも十分ではなかった。研究指導の展開については、当面の課題である。

3) 第13期生の学年担当として、三好弥生先生と共に、学生の個別面談を複数回、実施し、学生の現状把握に努めた。

3. 委員会活動

活動内容の詳細は、委員会活動のページに譲る。

4. 社会的活動

平成22年度に引き続き、平成23年度も高知県社会福祉士会理事を担当した。このことに加え、高知県内の医療ソーシャルワーカー・医師・看護師等との連携を図られたことにより、高知県内における研修等に関わらせていただくことができた。

また、関連する研究会の事務局を引き続き担当し、年次大会、地方会、人材養成講座等の催しにおいて、企画・運営等を行うとともに、人材養成講座では講義を行った。

新藤 こずえ

Kozue SHINDO

○研究活動

(1) 著書（1件）

上田健作・大槻知史・新藤こずえ『NPO経営自己評価マニュアル』高知県社会貢献活動支援推進会議（非営利組織活動の質的評価検討会編）

(2) 学内外の競争的資金の獲得状況（2件）

文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B））「知的障害のある『若者』の離家と家族形成に関する研究」（研究代表者 新藤こずえ）
（平成23年～25年度）

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））「先住民族の教育実態とその保障に関する実証的研究」（研究代表者 野崎剛毅）（平成23年～26年度）における研究分担者

○教育活動

障害者に対する支援と障害者自立支援制度、福祉NPO論、国際福祉論Ⅱ、社会福祉ふれあい実習、相談援助実習指導、相談援助実習、相談援助演習、土佐の健康と福祉（オムニバス）

○委員会活動

全学：キャリアセンター運営委員会

学部：就職委員会、学生委員会、実習委員会、総務委員会、予算委員会、国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

(1) 委員等

- ・高知県新しい公共支援基金事業運営委員
- ・高知県社会貢献活動支援推進会議委員
- ・高知県社会貢献活動支援推進会議質的評価検討会委員
- ・高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 「福祉・ボランティア」学びと実践推進委員会副委員長
- ・高知県社会福祉協議会 ボランティアセンター研究会コーディネーター
- ・公益信託高知市まちづくりファンド運営委員会委員
- ・公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討委員会委員
- ・ファンドレイジング・ジャパンin善意がめぐる寄付ぎふと実行委員会副委員長
- ・NPO高知市民会議 寄付先選定委員会委員
- ・NPO高知市民会議主催「とさっ子タウン」実行委員会委員
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・日本学校ソーシャルワーク学会会員 中国・四国地区世話人
- ・認定特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会会員

(2) 学外講師等

- ・南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー
- ・国立病院機構高知病院附属看護学校非常勤講師（「社会福祉・演習」を担当）
- ・高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師（「障害の理解」を担当）
- ・高知県主催児童福祉司養成講習会講師（「障害者福祉論」を担当）
- ・高知県社会福祉協議会主催「ボランティア受入れのための実践講座」講師（「人はなぜボランティア活動をするのか？～受入れ側は知って安心、その本音と建前～」を講演）
- ・高知県社会福祉協議会「専門家派遣による個別支援事業」における財団法人仁淀川町ふるさと体験センター池川自然学園の不登校生徒への指導方法助言
- ・高知大学総合教育センター修学支援部門主催「2011年度前期ボランティア講座 あなたも「ボランティア」をしてみませんか？」講師（「学生生活が変わる！ボランティア・NPO はじめの一歩」）

(3) 社会福祉士および精神保健福祉士国家試験を受験する学生への支援活動

- ・学習方法に関する相談支援活動・アンケートに基づく個別アドバイス（随時）
- ・国家試験ガイダンスの実施
- ・試験対策講座の実施（障害者に対する支援と障害者自立支援制度）
- ・国家試験勉強合宿へ同行しての学習支援

○総合評価と今後の課題

今年度は4回生の学年担当であり、就職活動支援、国家試験受験支援など、学生と関わる機会が多かったように思う。いずれも学生との個別面談が主であり、改めて、学生が本来もっている力の大きさを感じるとともに、その力を引き出すことの重要性も感じた。それは学年担当としての重い責務であったが、やりがいのある仕事でもあった。ともあれ4回生全員が3月末までに就職先を決定することができたことが何よりであった。

その他の教育活動は、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」「福祉NPO論」のほか、社会福祉士養成に関わる科目を中心に担当した。実習指導では、専門に近い領域で実習を行う学生の指導にあたった。従来は、専門に関係なく学生全般に対して実習指導を行っていたため、教員増員によるメリットがこのような形であらわれたことが感慨深い。

また今年度は、一昨年からの懸案事項であったタイ国際ソーシャルワーク研修を実施した。本来は国際福祉論Ⅱを履修する4回生を対象としていたが、タイミングが合わず、実際には3回生4名となった。タイ東北部でのホームステイ、コミュニティ・ソーシャルワーカーの活動への同行などを行った。日本人にとっては厳しい生活環境であったにもかかわらず、学生たちが常に明るく現地の人々と交流していたのが印象的であった。

研究活動は、今年度から科研費を利用して、従来から行っている研究「障害のある若者の自立」を精緻化させるべくフィールドワークを行った。また、研究分担者として、日本とスウェーデンの先住民族に関する研究を行うこととなり、スウェーデンで調査を行った。また、実践と研究に関わることとして、スクールソーシャルワーカーおよびスーパーバイザーとしての活動が4年目を迎えた。高知を離れることになったため、スクールソーシャルワーカーとしての活動は一旦休止となるが、ライフワークとして、今後も高知のスクールソーシャルワークに関わり、研究・教育活動に活かすとともに、地域での実践活動に貢献できる方策を考えていきたい。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

- (1) 研究会参加
 - 1) エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院 太田義弘教授主催）への参加
 - 2) 高知県子育て支援研究会への参加

- (2) 研究資金の導入
 - 1) 文部科学省科学研究費若手研究（B）「ストレングス視点に基づく知的障害のある人との協働アセスメント方法の構築」（平成 22～24 年度）
 - 2) 文部科学省科学研究費基盤研究（B）「分担研究：ソーシャルワーク教育における研修方法とプログラムの開発に関する研究」（平成 20～23 年度）
 - 3) 文部科学省科学研究費挑戦的萌芽研究「分担研究：生活支援実践ツールの試行から実践導入への検討」（平成 21～23 年度）

- (3) 学会参加
 - ・日本ソーシャルワーク学会
 - ・日本社会福祉学会中国・四国部会

- (4) 論文等
論 文
 - 1) 西梅幸治（2011）「ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践の基本特性—生活・支援・過程に着目して—」『高知県立大学紀要』61, 69-84.

○教育活動

- (1) 担当科目
 - ・「相談援助の理論と方法」
 - ・「福祉研究演習Ⅰ」
 - ・「福祉研究演習Ⅲ」
 - ・「相談援助実習指導」
 - ・「看護と福祉の世界」
 - ・「相談援助演習」
 - ・「福祉研究演習Ⅱ」
 - ・「社会福祉ふれあい実習」
 - ・「相談援助実習」

- (2) クラブ活動
 - ・グローバルクラブ顧問
 - ・手話サークル顧問

○委員会活動

- (1) 全 学
 - ・広報委員
 - ・地域創成センター推進委員

- (2) 学 部
 - ・実習委員
 - ・就職委員
 - ・健康長寿センター委員

○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知市教育研究所 運営委員
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師
- ・要約筆記者養成講座 講師（2012年1月28日）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが時間を割くことができた。特に科学研究費による研究テーマについては、ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法とコンピュータ支援ツールの開発を継続的に追究し、加えて知的障害のある人を対象としたインタビュー調査も実施することができた。またスクールソーシャルワーカー活用事業に関しても、実践者より示唆を得ることができ、今後その成果をまとめていきたい。

（2）教育活動について

講義・演習：

授業では、パワーポイントで作成したレジメを作成・配付し、シラバスに従い学生が重要なポイントを理解できるように工夫した。そしてレジメの他にもDVDなどの視覚教材の活用や追加資料の配付、そして演習のための事例を取り入れながら学生の理解度を高めるように努めた。また学生からフィードバック・コメントを得ながら、授業展開の修正を行った。今後も、理論と実践を融合し理解できるような展開や国試対策も見据えた工夫を重ねていきたい。

実習指導：

実習科目では、**face-to-face**での個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互い共感や考え方を深めることを重視してきた。今年度は実習巡回時や実習後のスーパービジョン過程で実践の理論化や自省に関して効果がみられ、それが確実に身につくような指導に努めた。

卒論指導：

今年度は、4名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は、ゼミの中でのディスカッションにより個々の論文内容の質を高めることができたと考えられる。

（3）委員会活動・社会的活動について

本年度は、広報委員として、学部パンフレット作成、オープンキャンパスなどに他の役割を兼ねながら尽力することができたのではないと思う。社会的活動に関して、高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザーとしては4年目であり、本学と高知県教育委員会の連携に関して一定の役割を担うことができたと思う。今後も努力と経験を重ね、委員会活動・社会的活動を通じて、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

鳩間 亜紀子

Akiko HATOMA

○研究活動

なし

○教育活動

[担当科目]

- ・高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・相談援助実習指導

○委員会活動

- ・入試実施委員
- ・実習委員

○社会的活動

[委員等]

- ・「専門介護福祉士認定に関する研究会作業部会A」委員（日本介護福祉士養成施設協会）

[講師等]

- ・介護教員講習会講師「研究概論」「研究方法」「研究演習」（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）

○総合評価及び今後の課題

11月に赴任し新たな職場環境に馴染むことに時間を費やしてしまった。前職では教育や研究とは異なる業務を行っていたため、思考を切り替える必要がある。

1. 教育活動について

「高齢者に対する支援と介護保険制度」はオムニバス形式ではあるが、11月から担当を引き継いだこともあり、結果的に4月当初の授業計画から内容を大きく変更することとなった。教育効果の面から望ましくないとされた点も見られたため、講義計画の検討と実行は十分に配慮したい。

講義においてはテキストに記載された解釈的な記述に頼らず、法令や映像を用いる工夫を行った。特に法令の使用については、学生の学習意欲を引き出すことが出来たと思われる。サービス利用者の理解と制度の理解のバランスを取りながら、今後も一次資料の提供に努めたい。

2. 研究活動について

研究から6年離れていた間、手つかずになっていたデータの整理を行いたかったが、結局実行できなかった。研究活動に使う時間を確保できるよう、努力したい。

3. 社会的活動について

日本介護福祉士養成施設協会の研究会において、介護福祉士の専門性について検討する機会を得ることができた。

地域貢献という点においては、高知県とのつながりを築く努力をしたい。

福間 隆康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

（1）論文

1. 福間隆康「介護職員の仕事コミットメントと組織コミットメントとの関係」『介護福祉学』第18巻第1号, 14-21頁, 2011年4月。
2. 福間隆康「組織, 仕事, クライアントへのコミットメントがサービスの質に与える影響に関する研究—介護サービス従事者を対象とした量的調査から」『日本労務学会第41回全国大会研究報告論集』332-339頁, 2011年6月。
3. 福間隆康「ヒューマン・サービス専門職に関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2011・19, 1-25頁, 2011年10月。
4. 福間隆康「サービスの質に関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2011・22, 1-28頁, 2011年12月。
5. 福間隆康「ワーク・コミットメントに関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2011・23, 1-26頁, 2012年2月。
6. 福間隆康「多重コミットメントに関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2011・24, 1-19頁, 2012年2月。
7. 福間隆康「ヒューマン・サービス組織におけるセミプロフェッションの特性」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第61号, 117-131頁, 2012年3月。
8. 福間隆康『サービス・クオリティの向上に多重コミットメントが与える影響に関する研究—ヒューマン・サービス専門職のコミットメントを中心に』広島大学大学院社会科学研究科博士論文, 2012年3月。

（2）学会報告

1. 福間隆康「組織, 仕事, クライアントへのコミットメントがサービスの質に与える影響に関する研究—介護サービス従事者を対象とした量的調査から」日本労務学会第41回全国大会（明治大学）, 2011年6月。
2. 福間隆康「サービスの質の規定要因としての職務コミットメントと組織コミットメント—高齢者デイサービスセンターの介護職員を対象とした定量的分析」日本ソーシャルワーク学会第28回大会（川崎医療福祉大学）, 2011年7月。
3. 福間隆康「サービスの質に与える多重コミットメントの影響—看護師を対象とした量的調査から」広島大学マネジメント学会例会（広島大学）, 2012年3月。

（3）競争的資金の獲得状況

1. 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B）「サービスの質を規定するモデル構築に関する研究」（平成22～24年度）

○教育活動

1. 社会福祉入門演習
2. 社会福祉基礎演習
3. 福祉サービスの組織と経営
4. 相談援助演習
5. 相談援助実習指導
6. 相談援助実習
7. 社会福祉ふれあい実習

○委員会活動

- (1) 全学
 1. 入試実施委員
- (2) 学部
 1. 社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員
 2. 学生委員
 3. 広報委員
 4. 地域創成センター推進委員
 5. 健康長寿センター運営委員
 6. 実習委員
 7. 国試対策支援ワーキンググループ委員
 8. 第14期生学年担当

○社会的活動

1. 高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「人材定着のマネジメント—高業績の人材をいかに定着させるか」講師，2011年12月。

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動

科学研究費補助金(若手研究B)の成果の一部を本学部紀要に掲載することができた。次年度は、科学研究費補助金(若手研究B)の研究計画書に基づき、着実に研究を遂行し、研究成果の形として、学会報告を行う予定である。

2. 教育活動

各授業では、能動的な学習や共同学習に重点を置き、学生を知的な発見に取り組みせるよう努めた。今後は、学生による授業評価に基づき授業を改善し、魅力ある授業を実施していきたい。

3. 社会的活動

リカレント教育講座において、参加者のニーズや関心のある問題を把握することができた。今後は、研修等の講師で時間の都合が許す限り要望に対応していきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論 説

三好弥生（2011）「胃瘻を造設した終末期高齢者の看取りに関する文献レビュー」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』61, 133-144.

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・「コミュニケーション技術」
- ・「介護総合演習Ⅱ」
- ・「生活支援技術Ⅱ」
- ・「生活支援技術Ⅴ」
- ・「障害の理解Ⅰ」
- ・「介護実習Ⅰ」
- ・「介護実習Ⅱ-①」
- ・「介護技術」オムニバスで担当
- ・「高齢者に対する支援と介護保険制度」オムニバスで担当
- ・「看護と福祉の世界」オムニバスで担当
- ・「介護等体験 事前指導」オムニバスで担当

○委員会活動

1. 全 学

- ・入試監査委員
- ・学生委員

2. 学 部

- ・2回生学年担当

○社会的活動

1. 委員等

- ・介護福祉士試験委員（2010年～）

2. 公開講座

- ・NPO法人宅老所はな ホームヘルパー2級講座「ケア計画の作成」講師，6月
- ・(福)京都老人福祉協会 ヘルパーステーションおぐりす 職員定例研修会「日々の介護サービス提供における迷い、不安 再考」講師，9月
- ・NPO法人宅老所はな ホームヘルパー2級講座「障害・疾病の理解、認知症の理解」講師，10月
- ・NPO法人宅老所はな ホームヘルパー2級講座「ケア計画の作成」講師，11月

3. その他

- ・こうち介護の日2011（高知中央公園）「プチリラクゼーション」出店，11月

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

介護コース設置2年目となり、担当する授業が倍増したため教材作成や準備に多くの時間を費やした。加えて高齢者入所施設等学外における介護実習も始まり、その具体的な準備や対応に追われた。また、「社会福祉士及び介護福祉士法」が一部改正され、2012年4月より医療的ケアが介護福祉士の業として実施されることが決定、平成27年度卒業生からカリキュラムにも「医療的ケア」が追加されることになった。そのため、医療的ケアを担当する教員に必要な研修の受講、シラバスの作成など準備を行ってきた。

来年度はさらに新規に担当する科目があるため、滞りなく授業が展開できるよう準備していきたいと考えている。

2. 委員会活動、社会的活動

学部学生数が毎年増加している状況の中、交通事故や盗難、健康や経済的課題を抱える学生が増加している。学生委員として、これら個々の学生の問題解決やその予防のため、各学年担当教員や学生課、健康管理センターと連携し、一つひとつ対応してきた。今年度はさらに学生数が増加するため、関係者との連絡を密にし、学生の福利厚生の上昇に努めたい。

3. 研究活動について

学内外の業務多忙につき、時間の確保が難しく落ち着いて研究を進めることができなかった。研究時間の確保が2012年度の重要な課題である。

稲垣 佳代

Kayo INAGAKI

○研究活動

（1）論文・報告書

稲垣佳代（2011）「就労移行支援事業所における精神障害者への支援に関する研究～通所期から就職に至るまでに着目して」高知県立大学紀要社会福祉学部編，第61巻，85～101.

（2）著書

稲垣佳代「第6章 事例13 地域移行支援」『精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編，中央法規出版，241～245，2012.

稲垣佳代「第5章第3節2 就労移行支援事業所」『精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会編，中央法規出版，189～193，2012.

（3）発表

稲垣佳代「就労移行支援事業所における精神障害者への支援に関する研究～通所期から就職に至るまでに着目して」日本社会福祉学会中国・四国部会2011年度第43回大会
(高知県立大学：2011年7月10日)

（4）学内外の競争的資金の獲得状況 なし

○教育活動

[講義]

1. 精神保健福祉援助技術各論
2. 精神科リハビリテーション学
3. 精神保健福祉援助演習
4. 精神保健福祉援助実習
5. 精神保健福祉ふれあい実習
6. 社会福祉特別演習V
7. 社会福祉特別演習VII
8. 土佐の健康と福祉（オムニバス）

[講義以外]

1. 実習支援
2. 国家試験受験者への学習支援

○委員会活動

[学部]

1. 実習委員会
2. 教務委員会
3. 入試委員会
4. 倫理審査委員会
5. 国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

（1）委員等

日本精神保健福祉学会 事務局

（2）公開講座

高知県立大学 高校生のための公開講座「今求められる精神保健福祉士のしごと」講師
(平成 23 年 7 月 30 日)

（3）学外講師

龍馬看護ふくし専門学校非常勤講師（「相談援助の基盤と専門職」を担当）

○総合評価と今後の課題

教育活動については、着任 1 年目ということで授業の内容や方法について試行錯誤した 1 年であった。「教員」ではあるが、教育について専門的な教育を受けているわけではない。そのため、FD（教員の教育内容や方法の改善及び向上を目的とした研修）に参加した。そこで授業方法について学習し、講義科目についてはチーム基盤学習を取り入れて学生が主体的に学べるような授業を展開した。今後は、教育内容の充実に向けて取り組んでいくことが課題である。

研究活動では、修士論文で取り組んだものについて日本社会福祉学会の中国四国大会で発表した。しかし、研究を発展させる取り組みはできておらず、来年度の課題となった。

その他の活動として、精神保健福祉士養成の新カリキュラムに対応したテキスト（2 冊）の作成に執筆者として携わることができた。また、日本精神保健福祉学会の事務局の一員として、学会運営に携わることができた。

今後も学内外のさまざまな活動を通して、精神保健福祉士の養成や生涯教育、精神保健福祉の発展に貢献していきたい。

加 藤 由 衣

Yui KATO

○研究活動

（1）学会発表

- ・加藤由衣「ソーシャルワーク教育における新しい方法に関する研究（6）－包括的視野からの養成教育と現任教育の特性検討－」日本ソーシャルワーク学会第28回大会（岡山）2011年7月

（2）学会参加

- ・日本社会福祉学会
- ・日本ソーシャルワーク学会

（3）研究会参加

- ・エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院 太田義弘教授主催）への参加

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「社会調査の基礎」
- ・「相談援助演習」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「相談援助実習」
- ・「社会福祉ふれあい実習」
- ・「社会福祉特別演習VI」
- ・「看護と福祉の世界」（オムニバス）

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部教務委員会
- ・学部総務委員会
- ・学部予算委員会
- ・国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

（1）学外非常勤講師

- ・学校法人龍馬学園龍馬看護ふくし専門学校（「相談援助の理論と方法」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

本年度は、十分に研究活動を進めることができたとはいえないが、ソーシャルワーク現任教育の研究を継続して行った。特に養成教育と現任教育を包括したソーシャルワーク教育という観点から研究を展開し、2009年度より行っているソーシャルワーク教育方法に関する学会発表で成果を報告した。2012年度は、現任教育方法の構築を研究課題に、教育活動とも連動させながら計画的に研究に取り組み、論文発表などで成果をまとめていきたい。

（２）教育活動について

講義では、学生が実感をとめないながら理論の理解を深めることができるように、グループ学習や体験などを取り入れた授業を計画した。また、パワーポイントや視聴覚教材、事例など、学生の授業への動機づけを高めるツールや教材を工夫した。そして、学生のリアクションペーパーをもとに授業内容や展開の改善を図るとともに、授業開始時に質問に対する説明を加えるなど、学生からのフィードバックを意識した授業を心がけた。

本年度は着任1年目で講義科目を初めて担当したため、この1年間の授業を振り返り、今後の授業改善に役立てていきたい。また、今後も学生の意見や質問に応えながら、実践と結びつく学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。そのなかでは、学生が講義科目や演習と実習を関連づけて考察できるような指導を心がけた。2012年度からは実習を行う学生数が増加するが、よりきめ細やかな学生の指導とサポートを行えるようにしていきたい。

また4回生の国家試験受験の支援では、個別面談の実施や学習環境づくりなどの学習支援を行ってきた。特に、学生が限られた時間のなかで計画的に学習を進めることができるように、個別面談をとおして学生とともに学習計画をたて、学習方法やテキストなどの助言を行った。今後も個々の学生にあわせた対応を意識して、社会福祉士ならびに精神保健福祉士国家試験の合格率の維持・向上に貢献していきたい。

鈴木 裕介

Yusuke SUZUKI

○研究活動

なし

○教育活動

- ・医療ソーシャルワーク論
- ・ケアマネジメント演習
- ・相談援助演習
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・相談援助実習指導
- ・相談援助実習
- ・社会福祉特別演習Ⅱ
- ・社会福祉特別演習Ⅴ
- ・看護と福祉の世界（オムニバス）

○委員会活動

全学

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員
学部
- ・教務委員
- ・入試委員
- ・情報処理委員
- ・実習委員
- ・国試対策ワーキンググループ

○社会活動

- ・社会福祉士国家試験全国統一模擬試験担当（日程：平成23年12月3日、会場：高知県立大学）
- ・龍馬看護ふくし専門学校 非常勤講師

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

本年度は、他業務に追われてしまい、まったくと言ってよいほど研究時間の確保ができなかった。業務の効率化や優先順位の見直しをして、次年度は研究時間の確保に努めたい。

（２）教育活動について

講義は、グループディスカッション・ロールプレイを適宜取り入れ具体的実践過程を理解できるよう努めた。また、毎回リアクションペーパーを記載してもらい、授業に対する理解・質問等の確認を行った。今後は、学生がより主体的に自ら考え、取り組めるように講義を工夫していきたい。

実習教育は、実習に行くということに対する心構えについて時間をかけて指導した。具体的には、「生活者がいて、その時間を共有させてもらうこと」と「その方にとってその瞬間は一回きりである」ということである。実習では、自分の課題や目標を達成することに意識が集中してしまいがちであるが、利用者の生活を一番に考えることの重要性について指導した。

（３）委員会活動・社会活動について

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会に携わることになり、高知医療センターの医療ソーシャルワーカーと協働して勉強会や事例検討を行う機会を得た。また、日本医療マネジメント学会発表に向けて準備中であり、来年度も引き続き準備を進めていきたい。

田 中 眞 希

Maki TANAKA

○研究活動

1. 論文

田中眞希（2011）「介護福祉実習における実習指導者の認識と指導體制に関する研究」『高知県立大学紀要』61, 103-115.

岩満賢治・秋山昌江・畔地利枝・恒吉和徳・田中眞希（2011）「身体障害者の外食における阻害要因に関する研究—施設・在宅の比較から—」『介護福祉研究』19, 18-21.

2. 報告

岩満賢治・秋山昌江・畔地利枝・恒吉和徳・田中眞希（2011）「福祉施設における魚の提供に関する実情」『聖カタリナ大学人間文化研究所紀要』16, 89-95.

3. 学会発表

田中眞希：介護福祉実習における実習指導者の認識に関する研究，日本社会福祉学会中国・四国部会第43回大会（高知），2011年7月.

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・介護の基本Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護技術（オムニバス）

○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部教務委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部学生委員会
- ・国家試験対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

1. 委員等

- ・第24回介護福祉士国家試験実地試験委員

2. 公開講座

- ・高知県立大学社会福祉学部高校生のための公開講座「介護福祉の魅力とやりがい」講師，7月.
- ・高知県介護福祉士会主催介護福祉士国家試験対策講座「人間関係とコミュニケーション」，「コミュニケーション技術」講師，9月.

3. その他

- ・こうち介護フェスタ2011（高知中央公園）「プチリラクゼーション」11月.

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

平成 23 年度より介護福祉コース 1 期生の介護実習が始まった。介護実習 I では主担当の先生に同行し、実習指導者との関係づくりや先生方の指導を見学させていただいた。2～3月に行われた介護実習Ⅱ－①では2名の実習生を担当し、実習指導者からの高い評価を得ることができた。

担当科目の一つである「介護の基本Ⅲ」では、練習問題を活用し授業内容の復習を行い、リアクションペーパーの内容を活かした授業を行うように心がけた。演習科目である「生活支援技術Ⅱ，Ⅲ」では、学生が少し困惑していることがあったので、改善し分かりやすい授業を展開したいと考えている。

2. 研究活動について

今年度は積極的な研究活動が行えなかった。次年度は時間を有効に活用し、計画的に進めていきたいと考えている。

3. 社会活動について

地域での活動は介護福祉養成にかかわることで、少しではあるが参加できたと思う。介護福祉実習等での関係を大切に、少しでも社会に貢献できる活動を行うように心がけたいと考えている。

橋 本 力

Chikara HASHIMOTO

○研究活動

論文

「介護支援専門員によるインフォーマル・サポートに関する情報把握とその関連要因」、
橋本力、岡田進一、白澤政和、『ケアマネジメント学』、10、43-56

○教育活動

- ・ 社会福祉ふれあい実習
- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助実習
- ・ 相談援助演習
- ・ 虐待防止論
- ・ 社会調査の基礎
- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・ 看護と福祉の世界（高齢者福祉入門担当）

○委員会活動

- ・ 広報委員
- ・ 地域創成センター委員
- ・ 健康長寿センター委員
- ・ 入試委員
- ・ 実習委員
- ・ 教務委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

- ・ 高知県立大学「高校生のための公開講座 超高齢社会とソーシャルワーカーの役割」

7月30日

○総合評価及び今後の課題

・研究活動

今年度は、自身の研究テーマである介護支援専門員によるインフォーマル・サポートの情報把握について原著論文を執筆した。次年度は、自身の研究をさらに発展させ、介護支援専門員によるインフォーマル・サポートの活用について、その支援プロセスに焦点を当て、研究を進めていく予定である。

・教育活動

学生にとって、講義内容が理解しやすく、また学生自らが普段の生活と結びつけて考えることができる講義となるよう工夫を行った。次年度においては、今年度の課題点を精査し、学生にとってより良い講義となるよう改善していきたいと考えている。

・社会的活動

今年度における社会的活動は、高校生を対象とした公開講座のみであった。次年度においては、自身の専門および研究成果等を少しでも地域へと還元できるよう、自己研鑽に努めていきたいと考えている。

日本社会福祉学会中国・四国部会第43回大会

第43回大会実行委員長 田中 きよむ

高知県立大学で開催させていただいた第43回大会は、大会テーマを「今日の貧困問題の多様化とソーシャルワーク」としました。今日の日本の貧困問題は、家庭の生活困難と子どもの教育問題が結びついた子どもの貧困、国民健康保険制度に関連して医療が受けられない人々の問題、サラ金債務等で生活が行き詰まっている人々の問題、ホームレスをめぐる貧困と支援課題、生活保護の制度上の課題や適用問題などの複雑な形で社会問題化しています。

本大会では、静岡大学の布川日佐史先生をお招きして基調講演いただきながら、シンポジウムと併せて、そのような貧困の多様化に対応する支援課題と社会福祉制度上の課題を明らかにしようと思いました。また、とくに地域における生活困難を貧困問題として捉え直した場合、保健・医療・福祉の連携を視野に入れた地域包括ケアシステムの方向はいかにあるべきかを特別分科会で探ろうと思いました。高齢者が生活不安なく暮らすことができ、その人らしい生き方が大切にされる環境や関係を地域のなかでどのように形成してゆくべきかを明らかにしようと思いました。



【写真】布川日佐史先生基調講演の様子



【写真】貧困問題シンポジウムの様子

布川日佐史先生の基調講演「今日の貧困問題を見る視点」では、リーマンショック以降、一般的・規範的生活レベルが低下し、生活保護基準未満世帯が放置されているなかで、格差拡大を抑える社会の下支えとして現行生活保護水準を確保する必要性が指摘されました。そして、就労自立に偏った自立だけでなく、日常生活と社会生活の自立を実質的に保障し、福祉事務所の「指導・指示」を制裁型から支援型に転換しながら、自立支援を権利として保障する方向が提起されました（参考：布川日佐史『生活保護の論点』『自立支援プログラムの活用』山吹書店）。

布川先生の基調講演を受けて、日頃、精力的な相談支援活動を展開されている各方面の方々をシンポジストとしてお招きし、貧困問題の多様化に対応する専門職や市民ネットワークによる支援課題と、社会福祉の行政上の課題や制度上の課題を明らかにしました。

藤田早苗氏（高知市スクールソーシャルワーカー）からは、事例分析をふまえ、家庭の貧困がネグレクトな環境を生み出し、学習意欲の低下や虐待を生み出していることから、社会的サポートや社会保障制度の必要性が提起されました。岡村啓佐氏（高知医療生活協同組合潮江診療所）からは、無料定額診療事業利用118件のうち84%が生活保護基準以下の生活水準にあり、保険料が払えず無保険になったり、3割負担ができないために治療を受けられなかった実態が報告されました。塩冶一彦氏（高知市生活と健康をまもる会）からは、精力的な相談支援活動をふまえ、生活保護以前の問題（仕事を失ったり収入を減らした時の支援の欠如）、生活保護適用の問題、生活保護に伴うスティグマの問題などが指摘されました。丹下晴喜氏（愛媛大学）からは、学生との相談支援活動をふまえ、松山市のホームレスの深刻な実態と生活保護行政の問題点が示されました。

特別分科会「地域包括ケアシステムの構築」では、佐野裕二氏（岡山県総社市社会福祉協議会）から、包括ケアシステムの先進的な取り組みが報告されました。小野広明氏（高知県地域福祉部）からは、高知型福祉（高齢者、障害者、児童の共生をめざす）を実現するために地域福祉計画を全市町村目標に策定支援していることが報告されました。太田成人氏（高知県四万十市あったかふれあいセンター）からは、高知型福祉の実践として、集う、訪ねる、預かる、送る、の4つの機能をもつセンターの取り組みが報告されました。

自由研究発表では、4つの分科会を開くことができました。合計19本の研究報告がなされました。内容も医療、障害者・高齢者福祉、児童・障害児福祉、介護福祉など、バラエティに富む内容で、若手研究者、院生を中心に活発な報告、議論がおこなわれました。院生・研究者・実践者交流会も多くの参加を得られ、にぎやかな交流がおこなわれました。

本大会の全体の参加者は約180名と、多くの方に関心をもっていただくことができたと思われます。この場をお借りして、関係各位のご協力、ご支援に感謝申し上げます。



【写真】地域包括ケアシステム特別分科会の様子



【写真】自由研究報告の様子

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動報告書)

2011年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

委員会名	構成メンバー			
教務委員会※ ¹	<u>杉原 俊二</u>	住友 雄資	小坂田 稔	丸岡 利則
	長澤 紀美子	西内 章	三好 弥生	稲垣 佳代
	加藤 由衣	鈴木 裕介	田中 眞希	橋本 力
入試委員会	前山 智 (入試委員)	<u>上白木 悦子</u> (入試実施委員長)	鈴木 孝典 (入試実施委員/センター試験部会委員)	福間 隆康 (入試実施委員)
	鳩間 亜紀子	稲垣 佳代	鈴木 裕介	橋本 力
学生委員会	三好 弥生	黒田 しづえ	後藤 由美子	上白木 悦子
	福間 隆康	新藤 こずえ	田中 眞希	
実習委員会※ ²	<u>小坂田 稔</u>	西内 章 (社会福祉士コース 主担当)	後藤 由美子 (介護福祉士コース 主担当)	鈴木 孝典 (精神保健福祉士 コース主担当)
就職委員会	新藤 こずえ	後藤 由美子	西梅 幸治	
広報委員会	<u>宮上 多加子</u>	西梅 幸治	福間 隆康	橋本 力
地域創成センター	<u>宮上 多加子</u>	西梅 幸治	福間 隆康	橋本 力
健康長寿センター	後藤 由美子	上白木 悦子	西梅 幸治	福間 隆康
	橋本 力			
高知医療センター・ 県立大学包括的連携協議会	前山 智	上白木 悦子	鈴木 裕介	
	看護・社会福祉連携部会委員			
総務・予算委員会	<u>長澤 紀美子</u>	新藤 こずえ	加藤 由衣	田中 眞希
	鈴木 孝典	鈴木 裕介	稲垣 佳代	橋本 力
	情報処理部会委員			

■ : 全学委員

二重下線 : 全学委員長/センター長

一重下線 : 学部委員長

※1 学部FD委員会を兼ねる

※2 実習委員会委員は上記委員長+各コース主担当に加え、授業担当者全員

教務委員会（学部FD委員会を兼ねる）

杉原 俊二

（１）教務委員会の開催

平成 23 年度は学部教務委員会を合計 7 回（1 回はメール審議）開催した。

（２）授業の調整

社会福祉士養成課程の旧カリキュラム（4 回生）、新カリキュラム（3 回生）、介護福祉士養成課程を含むカリキュラム（1・2 回生）と、3 つのカリキュラムが並行していた。社会福祉士の受験についても、一昨年度から新カリキュラムにもとづいており、様々なケースで学生に不利益がないような調整をおこなった。

（３）卒業研究論文に関する発表会の開催

卒業研究論文作成のため、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成した。また、卒論構想発表会は 5 月 18 日・25 日、卒論中間発表会は 10 月 19 日、卒業研究論文発表会は 2 月 17 日に実施した。発表形式は例年通りに、構想発表会と最終発表会は口頭発表、中間発表会はポスター発表とした。

（４）次年度のゼミ配属についての調整

12 月に『平成 24 年度福祉研究演習 I・II 選択資料』を作成し、1 月に 2 回生へ配布と説明をしたうえで、ゼミ希望をまとめた。来年度は、定員 70 名でゼミ担当教員が 16 名となり、1 ゼミあたりの上限を 5 名として調整した。まず、第三希望まで取ったが、第一希望での選考をおこない、後は空いているゼミへ再度応募をする形になった。3 月にゼミ担当教員の退職が決まり、特別措置として上限を 6 名として再配置をおこなった。

（５）学部FDの開催とFD研修会への参加

学部FDとして、7 月 9 日に静岡大学の布川日佐史先生を招き、「今日の貧困研究の動向」を開催した。

本年度の新任教員と杉原が、愛媛大学から配信される遠隔講義のプログラム（8 月 23 日「グラフィック・シラバスの作成方法」「学習評価の基本」「わかりやすいシラバスの書き方」「学習評価の基本」、24 日「大人教講義法の基本」、25 日「臨床現場における実習評価と学生へのフィードバック」へ参加した。参加者からは好評を博した。遠隔講義であれば、本学で研修が可能であり、今後とも活用する予定である。また、全学FDとして 9 月 7 日「様々な授業改善の技法」、1 月 19 日「発達障害を持つ学生への理解と対応」が開催され、教員が参加した。

（６）規程等の改正

「精神保健福祉士」が新カリキュラムへ移行（「介護福祉士」も一部改正）がおこなわれ、学則の変更など手続きが行われた。また、非常勤講師の採用・委嘱等の規程や、成績の保護者への情報提供など複数の規程が変更となり、それについて対応した。

（７）今後の課題

今後、3・4 回生の福祉研究演習の運営方法や研究の指導について、70 名定員体制に即したものにすることが必要がある。また、科目名称などについても、変更してはどうかという指摘が、学部外からあった。それについて対応をする。

入 試 委 員 会

上 白 木 悦 子

○平成 23 年度委員会の体制

平成 23 年度の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を前山学部長、全学入試実施委員を上白木（委員長）・鈴木孝典・福間、学部入試委員を鳩間・橋本・鈴木裕介・稲垣、センター試験部会委員を鈴木孝典が担当した。

○平成 24 年度入試の概況

1. 結果

区 分	募集人員 (人) A	男女 別	志望者数 (人) B		受験者数 (人) C		合格者数 (人) D		入学者数 (人)		志願 倍率 (%) B/A	合格 倍率 (%) C/D
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)		
推薦 (11/19)	県内	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
		女	30	30	30	30	21	21	21	21	1.5	1.4
		計	30	30	30	30	21	21	21	21	1.5	1.4
	全国	男	4	0	4	0	2	0	2	0	0.4	2.0
		女	30	2	30	2	8	0	8	0	3.0	3.8
		計	34	2	34	2	10	0	10	0	3.4	3.4
	計	男	4	0	4	0	2	0	2	0	0.1	2.0
		女	60	32	60	32	29	21	29	21	2.0	2.1
		計	64	32	64	32	31	21	31	21	2.1	2.1
個別	前期 (2/25 ~26)	男	45	14	43	14	5	0	5	0	1.3	8.6
		女	132	35	118	32	36	10	31	10	3.8	3.3
		計	177	49	161	46	41	10	36	10	5.1	3.9
	後期 (3/12 ~13)	男	59	11	31	6	1	0	1	0	11.8	31.0
		女	144	38	63	21	6	2	4	2	28.8	10.5
		計	203	49	94	27	7	2	5	2	40.6	13.4
	計	男	104	25	74	20	6	0	6	0	2.6	12.3
		女	276	73	181	53	42	12	35	12	6.9	4.3
		計	380	98	255	73	48	12	41	12	9.5	5.3
私費外国人 留 学 生 (2/26)	男			0		0		0				
	女			0		0		0				
	計			0		0		0				
合 計	70	男	108	25	78	20	8	0	8	0	1.5	9.8
		女	336	105	241	85	71	33	64	33	4.8	3.4
		計	444	130	319	105	79	33	72	33	6.3	4.0

前期試験の課題図書：鎌田實(2011)「なげださない」集英社文庫

入学者の県内率：45.8%

○平成 24 年度入試の特徴

1. 志願状況について

- 1) 推薦・前期・後期の各入試につき、前年度（平成 23 年度）と比し、志願者が増加した（平成 23 年度比：推薦 1.1 倍・前期 1.27 倍・後期 1.5 倍）。
- 2) 入学手続き者の県内率につき、前年度（平成 23 年度）と比し、増加した（平成 23 年度：平成 24 年度＝43.4%：45.8%）。
- 3) 推薦入試における全国枠につき、高知県内からの受験実績があった（推薦入試の全国枠は、平成 23 年度から実施を始めた）。

○志望動機調査の実施

調査は、14 期生（1 回生）を対象として実施した。結果としては、「将来は社会福祉関係の仕事に就きたいと思った」、「学費が私大より安い」、「センター試験の結果を見て」、「社会福祉関連の資格を取得したいから」が多く挙げられた。傾向としては、例年通りである。

○課 題

高知県内の受験者・入学者手続き者の実績につき、広報等を通じ、維持・向上を目指す。

学 生 委 員 会

三 好 弥 生

○活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○活 動 内 容

1. 相談活動

- ・健康管理センターが実施する、精神科医師、婦人科医師、保健師、心理カウンセラー等による相談窓口について、相談の利用形態、利用時間、申し込み方法等の説明を行い、掲示板などを利用して学生に周知を行った。
- ・随時、健康管理センター、学年担当教員、学生課と連携し、本学部生の心身の健康状況の把握と情報共有を行った。
- ・メンタルヘルス、悩み事などの相談は、基本的には学年担当教員およびゼミ担当教員が対応したが、学生委員会ではその情報の集約に努めた。

2. 経済的援助

- ・学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて情報提供及び手続を行った。

3. 事故・事件への対応

平成 23 年度は交通事故、不審者遭遇、盗難などの事故や事件件数が大幅に増加した。特に新学期から夏季までに集中していた。これに対して、①掲示板等による注意喚起 ②交通安全講習会の実施など対応を行った。

平成 23 年度 池キャンパスにおける事故件数 計 23 件 → 交通事故 18 件（受傷 17 件、物損 1 件）、交通事故以外の受傷 5 件

- ・社会福祉学部では、1・2 回生を対象とした「交通安全講習会」を 7 月に開催、高知南警察署交通課の課長の講演を聞いたり、急ブレーキの衝撃を体験する機会を設けた。
- ・犯罪予防については、防犯に係る情報提供を掲示し注意喚起を行ったり、防犯ベルの貸し出しをするなどした。

4. 感染症への対応

健康管理センターにおいて把握している学部学生のインフルエンザ感染者は下記の通りであるが、届出をしていないものもあると考えられる。インフルエンザは感染力が高いため、感染拡大を防止するためにも的確な情報収集および情報提供が必要であると考えられる。

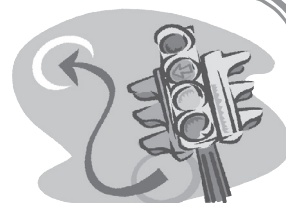
平成 23 年度 社会福祉学部におけるインフルエンザ感染者 計 6 名 → 1 回生 1 名、2 回生 5 名
--

○交通安全講習会 ポスター

交通安全講習会のお知らせ

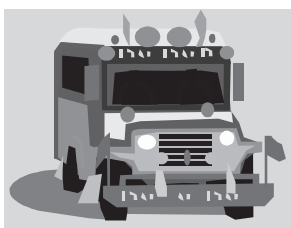
社会福祉学部 1・2回生のみなさまへ

交通安全講習会



1. 日時 平成23年7月14日（木）16：10～
2. 場所 共用棟大講義室・屋外
3. 対象 社会福祉学部 1・2回生ほか
4. 予定 高知南警察署 交通課長による講演
JAFによる急ブレーキの衝撃体験（予定）
…など

社会福祉学部では、4～6月に交通事故が多発しています。これを受け、交通事故に巻き込まれないための、交通安全講習会を行うこととなりました。学生のみなさんは、ふるってご参加くださいますようお願いいたします。



✧学生課学生支援担当✧

実 習 委 員 会

小 坂 田 稔

1. 活 動 方 針

2011年度は、社会福祉士養成課程では、新カリキュラムに対応した実習となり、精神保健福祉士養成課程において新カリキュラム対応準備期間としての実習となった。また、介護福祉士養成課程は、2年目を迎え、初めて学生を配属実習に送り出す年度であった。

本年度の活動方針は、こうした新たな動きに対応するため、特に、福祉実習支援室を中心としたさらなる実習支援体制の整備・充実を図ることが重要となった。

2. 活 動 内 容

1) 実習の手引きの作成

今年度も「社会福祉実習のてびき 2011年度版」を作成し、事前学習、配属実習、事後学習に活用するとともに、実習委託先の本学部の各実習内容についての理解を進め、より充実した実習内容としていくための手引きとして活用した。

2) 配 属 実 習

2011年度の相談援助実習は31名、精神保健福祉援助実習は21名、介護福祉実習は介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ－①ともに17名が配属実習を行った。

2011年度 相談援助実習配属先内訳

相談援助実習 31名	
社会福祉協議会	10名
病院(精神科除く)	12名
児童相談所	2名
児童養護施設	1名
特別養護老人ホーム	2名
介護老人保健施設	1名
障害福祉サービス事業所	2名
知的障害者入所更生施設	1名

今年度の相談援助実習においては、新カリキュラムに対応していくため、毎週一回の巡回指導を行うとともに、実習期間中の帰校日設定の形による実習指導に取り組んだ。

2011年度 精神保健福祉援助実習配属先内訳

精神保健福祉援助実習 21名	
精神科病院	21名
精神保健福祉センター	2名
障害福祉サービス事業所	11名

2011 年度 介護福祉実習配属先内訳

介護福祉実習		
介護実習Ⅰ 17名		
介護老人福祉施設		17名
介護老人保健施設		17名
障害者支援施設		17名
重症心身障害児施設		12名
通所介護事業所		17名
通所リハビリテーション事業所		7名
認知症対応型共同生活介護事業所		17名
小規模多機能型居宅介護事業所		17名
訪問介護事業所		17名
特定施設入居者生活介護事業所		13名
介護療養型医療施設		6名
介護実習Ⅱ－① 17名		
介護老人福祉施設		12名
介護老人保健施設		5名

3) 実習連絡協議会の実施

介護福祉実習、相談援助実習、精神保健福祉援助実習の各実習先の実習指導者との連絡調整を図るため、3月6日に社会福祉実習連絡協議会を開催した。相談援助実習先からは20か所、精神保健福祉援助実習先からは10か所、介護福祉実習先からは16か所の施設・機関より出席があり、学生の実習内容の発表と、実習先の実習指導者との懇談を行った。

4) 実習支援体制の拡充

本年度の方針の一つである社会福祉実習の支援体制充実を図るため、介護福祉実習担当1名、相談援助実習担当3名、精神保健福祉援助実習担当1名の各担当助教の配属が図られ、学生指導および実習先との連絡調整など、きめ細やかな取り組みを行うことができた。また福祉実習支援室の有効・円滑な管理運営を行うため、「福祉実習支援室運営委員会規程」を整備するとともに、各福祉実習担当助教と実習委員長との連絡会議を月一回行い、福祉実習支援室の役割や機能の充実に努めた。

3. 成果と課題

新たな社会福祉実習

社会福祉実習においては、現場での配属実習とともに、大学内での事前・事後の学習が重要となる。事前学習において配属先の業務内容はもちろんのこと、そこで必要となる社会福祉援助技術の復習と確認の徹底が必要であり、そのことにより配属実習での学びの深さが決まってくる。また事後指導においては、実習記録を基にした徹底した見直し、専門的な視点から行われていくことが必要であり、このことにより配属実習での学びの深さがさらに増していくこととなる。こうした事前・事後の実習指導がまだ十分とはいえ、そのための指導体制や指導内容の検討が必要と言える。

就 職 委 員 会

新 藤 こ ず え

（１）全学的取り組み（キャリアセンター運営委員会）

全学キャリアセンター運営委員会では、①キャリア教育体制の充実、②進路支援対策・企業訪問強化、③インターンシップ、④進路未決定者のケアの４つの活動方針に基づき取り組みを実施した。詳細については、キャリアセンター運営委員会の年次報告書を参照のこと。

（２）社会福祉学部の取り組み

１）就職ガイダンス等

- ①オリエンテーション（2011年4月）
- ②家庭裁判所調査官就職説明会（2011年4月）
- ③卒業生による社会福祉学部就職セミナー（2011年5月18日）
講師：下村真未さん（5期生：元高齢者施設職員）
須藤碧さん（8期生：医療ソーシャルワーカー）
高田真衣さん（7期生：精神科ソーシャルワーカー）
岡村奈緒美さん（10期生：スクールソーシャルワーカー）
- ④4回生による社会福祉学部就職セミナー（国試セミナー含）（2012年3月20日）
講師：小松成美さん、高芝和希さん、津島麻希さん、
鍋島志帆さん、水口くるみさん、山本友紀さん（いずれも11期生）

２）個別相談等

学生課とりわけワクワクWork!!と連携しながら、社会福祉学部では学年担当教員、ゼミ担当教員らが中心となり、4回生の進路相談、履歴書添削、面接練習を行った。また3回生以下の学生に対しては、学部就職委員と学年担当教員が連携し、全学学生対象の就職ガイダンスへの周知および参加の呼びかけを行った。

３）進路の状況

【就職率】就職希望者34名が全員就職決定（就職率100%）

【業種別内訳】

- ①医療業：15名（一般病院7名、精神科病院8名）
- ②社会福祉：11名（障害者関係5名、児童関係3名、社会福祉協議会2名、高齢者関係1名）
- ③公務員・準公務員：3名（独立行政法人1名、市町村2名）
- ④一般企業：5名

【雇用形態】正職員：30名、その他：4名

【卒後勤務地】高知県内：21名、高知県外：13名

（３）今後の課題

学生の進路が医療・福祉分野以外の就職希望者が増えているため、学生への個別対応がより一層重要になるが、学生数増により学部の就職委員のみでは、学生の個別対応が十分に行うことは難しいと考えられる。そのため、学部では、就職担当を学年担当教員のみならず、ゼミ担当教員などに分散化する必要がある。また、全学では、ワクワクWork!!の果たす役割の大きさに応じたスタッフ配置など、全学的課題として対応が求められるものであると考える。

広 報 委 員 会

西 梅 幸 治

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会（学部）は、全学センター長に宮上教授、学部委員を西梅講師、福間講師、橋本助教、事務について杉村氏が担当し計5名で構成した。その主要な取り組みは、次の通りである。

（1）「大学案内」の編集・製作

平成23年度からの高知県立大学への校名変更と男女共学化に伴い、「大学案内」を修正した。社会福祉学部の紹介ページでは、年次で変更が必要な箇所について、その他では、学生のインタビュー欄、サークル活動欄、就職先欄についても修正を行った。

（2）オープンキャンパス

社会福祉学部では、次ページ以降の資料のとおり、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、学部紹介DVD上映、体験授業（杉原教授、丸岡教授）、ゼミ室訪問、介護体験コーナー、手話体験コーナーなどのプログラムを実施した。学部企画への参加者数は、次の通りである。

【平成23年度社会福祉学部での参加者数】

全体＝155名、県内：県外＝115：40、男：女＝19：136

本年度プログラムは、全体的に好評であったが、特に学部全体説明会、体験授業、談話室、介護体験コーナーが好評であった。また昨年度同様、保護者数も増加し、休憩室設置が効果的であった。問題点としては、全体説明会からの移動時の動線について他学部との調整が不十分だったこと、初回の体験授業に学生が集中し教室に収容できなかったこと、などが挙げられる。

（3）在学生による高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。今年度については、1回生24名が出身高校を訪問して、男女共学化、全国推薦、大学生活などについてPRを行った。

（4）学部パンフレットの作成

昨年度までのPRチラシ作成をやめ、本年度は、総務委員会と協働で学部パンフレットを作成した。3福祉士資格取得コースの紹介や、少人数教育、国家試験合格率・就職率の高さ、魅力あるキャンパスライフなどについてアピールできるような内容で構成し、1,200部を作成した。

（5）学部ホームページへのイベント記事の掲載

本年度は、インターネットを利用した広報にも積極的に取り組んだ。全学・学部のイベントごとに写真付きの記事を作成し、学部HPに掲載した。

○今後の課題

学部定員増と男女共学化に対応した学部広報活動が今後も継続的に必要である。来年度は、公立大学法人、3福祉士対応、少人数教育、国試合格率・就職率の高さなどのメリットを活かし、高校生、保護者、進路指導担当を対象に広報活動を展開していきたい。具体的なツールとしては、学部パンフレットの作成や学部紹介DVD、インターネットの活用などを検討していきたい。またオープンキャンパスについても、魅力的で効率的なプログラム構成（体験授業を同時刻にして選択制にする、どのプログラムにも参加してもらえるように工夫するなど）、保護者対応の充実、全学プログラムとのスムーズな調整に努めたい。

オープンキャンパス 2011 に関するアンケート — 結 果 —

高知県立大学社会福祉学部 広報委員会

- 開催日：2011年7月31日(日)
- 会 場：高知県立大学池キャンパス
- アンケート回収数：103（受験生 99、保護者 3、教員 1）
- 記 名：88（うち名前のみ記入 4）
- 無記名：15（うち学校名・学年ともに記入 14、学年のみ記入 1）
- 学年別：1年生 9名、2年生 39名、3年生 51名、保護者 3名、教員 1名
- 性 別：女 92名、男 10名（無記入 1名）
- 県内/県外比：県内 20校 69名/県外 24校 32名、無記入 2名

1. オープンキャンパスのことを どこでお知りになりましたか？

①進路指導の先生	43
②ポスター	21
③大学の広報	7
④友人	19
⑤テレビ	0
⑥新聞	1
⑦進学情報誌	3
⑧インターネット (ホームページ(9) マナビジョン(6))	33
⑨その他	3
計	130

※複数選択あり

2. 社会福祉学部に関して どのような情報が知りたいですか？

①入試関係の情報	37
②教育内容・カリキュラム	45
③教員の研究内容・プロフィール	4
④キャンパスライフ	21
⑤就職状況	24
⑥資格取得に関する情報	25
⑦その他	2
計	158

※複数選択あり

3. 社会福祉学部のオープンキャンパスで 印象的だったプログラムは何ですか？

①学部全体説明会	32
②1回生の先輩による相談室	20
③教員による相談室	3
④学部紹介ビデオ上映会	4
⑤体験授業	39
⑥介護体験コーナー	19
⑦ゼミ室訪問	4
⑧その他	1
計	122

※複数選択あり

4. 社会福祉学部に関心を持った きっかけは何ですか？

①将来は社会福祉士関係の仕事に就きたいから	79
②資格を取得したいから	68
社会福祉士	43
精神保健福祉士	14
介護福祉士	18
③県立大学のため、私学に比べ学費が安いから	40
④地元の大学で自宅から通えるから	21
⑤高校や塾の先生に勧められたから	16
⑥親に勧められたから	12
⑦共学化されたから	5
⑧その他	6
計	247

※複数選択あり

5. 本学の社会福祉学部へ進学を希望しますか？

①ぜひ進学したい	56
②できれば進学したい	22
③希望しない	0
④他の学部と迷っている・考え中	23
計	101

※複数選択あり

○オープンキャンパス プログラム

2011 社会福祉学部 オープンキャンパス

2011年 7月31日 受付： 共用棟 1階 ロビー

	共用棟(D棟)	社会福祉学部棟(E棟)			看護福祉棟(F棟)			E棟 F棟 全階	
	2階 大講義室	E102 講義室2	E103 講義室1	演習室 2,3,4階	1階	F110 小講義室	F104 家政実習室		
10時	学部全体 説明会 [10:00-10:40]	学部の先生や先輩に授業や資格、大学生生活のことなど何でも聞いてみよう！			介護体験をとおして実際の介護に触れてみよう！		教員とのミニ談話コーナーも設けています！		自由見学
11時		例年大好評 体験授業① [11:00-11:45]	教員/先輩との談話室 [10:50-12:00]	ゼミ室訪問 [10:50-12:00]	介護体験コーナー [10:50-12:00]	学生による学部紹介のビデオやスライド上映をしています(随時)	休憩室 [10:50-12:00]		
12時	食堂(共用棟)で学生アトラクション[12:00-13:00] (太鼓部とよさこいチームグローカルクラブ)								
13時	受付は共用棟1階ロビーです(随時)	学部全体説明会 [13:00-13:40] 例年大好評 体験授業② [14:00-14:45]	少人数でのゼミや研究の様子について色々聞いてみよう！		手話体験コーナーもあります！		休憩室 [13:00-15:45] ご家族の方の休憩に！ フリードリンクコーナーあります😊	自由見学	
14時			教員/先輩との談話室 [13:00-15:45] ご家族の方もどうぞ！	ゼミ室訪問 [13:00-15:45] ご家族の方もどうぞ！	介護体験コーナー [13:00-15:45] ご家族の方もどうぞ！	学生による学部紹介のビデオやスライド上映をしています(随時)			
15時			フリードリンクコーナーあります😊	ご家族の方もどうぞ！	ご家族の方もどうぞ！	ご家族の方もどうぞ！			
16時									

体験授業 ①

体験授業 ②

- 11:00-11:45 丸岡 利則 先生
・ ボランティアとは何か
—ボランティアリズム概念の整理から始まる理論福祉学
- 14:00-14:45 杉原 俊二 先生
・ 身近にある子ども・家庭福祉

みなさんのお越しをお待ちしています！

永国寺キャンパスと池キャンパスの間を
シャトルバスが運行します！

-79-

地域創成センター推進委員会

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の地域創成センター推進委員会（学部）は、全学センター長に宮上教授、学部委員を西梅講師、福間講師、橋本助教、事務について杉村氏が担当し計5名で構成した。その主要な取り組みは、高校生のための公開講座を開催したことである。本講座は、高校生を対象に社会福祉の理解を深めてもらうと同時に、四国で唯一の公立大学で3福祉士資格に対応する本学部を認識してもらう機会とし、毎年開催している。本年度の開催結果は、次の通りである。

【高校生のための公開講座】

開催日	7/30(土)
会場	社会福祉学部棟 E102、103
受講者数	28校 67名（別に高校教員が1名参加）
学年別	1年生 2名、2年生 17名、3年生 48名
男子/女子	男子 4名/女子 63名
県内/県外	県内 52名/ 県外 15名（愛媛 8名、徳島 4名、香川 2名、広島 1名）
講座の概要	10:00～10:20 学部紹介（前山学部長） 10:20～11:50 社会福祉士に関わる授業「超高齢社会とソーシャルワーカーの役割」（橋本助教） 12:50～14:20 精神保健福祉士に関わる授業「今求められる精神保健福祉士のしごと」（稲垣助教） 14:30～16:15 介護福祉士に関わる授業「介護福祉士の魅力とやりがい」（含：ユニバーサルフードの体験）（田中助教）

全プログラムをとおして、以下の通り成果を得ることができたと考えている。

- ①社会福祉、精神保健福祉、介護福祉への関心の向上
- ②ソーシャルワーク、ケアワークへの基礎的知識の獲得
- ③社会福祉領域に関する国家資格への理解の促進
- ④本学社会福祉学部の授業・プログラムの周知拡大

○今後の課題

今年度の講座は、高校生が大学をより身近に感じることができるよう、若手の教員が担当する構成で企画した。演習を交えた内容で高評価であったと感じた。また課題としては、①台風などの影響による講座延期の判断と対応、②事務局や警備との円滑な連絡調整、③周知・配布のための広報ラインのシステム化、④全学HPへの積極的なリンクによる情報提供、などがあると感じた。魅力的な企画・実施が求められる業務のため、今後もさらなる工夫に努めたい。

追加資料

【開催案内】

【ポスター】

○高校生のための公開講座 2011 パンフレット

ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部では、高知県内や県外の高校生を対象に「高校生のための公開講座」を本年度も開講いたします。この講座は、社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学べ、西日本で唯一の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格が取得可能な本学部の存在を認識していただく機会として実施しております。

夏休みのごとき、本学部で普段行われているような講義を聴いたり、先生方に直接質問したりすることで、本学部の雰囲気や関わる機会となります。日ごろから社会福祉に関心を抱いている人だけでなく、たくさんの人に受講していただきたいと思っております。

多くの高校生の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

高知県立大学社会福祉学部
学 部 長 前山 智

高校生のための公開講座の受講申込方法

1. 「高校生のための公開講座」受講申込書（別紙）に必要事項をご記入ください（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）。



2. 高校の先生を通じて、FAXが郵送でお申込みください。参加費は無料です。

お申込み締切は、7月15日（金）必着

【お申込み先】〒781-8515 高知市池田 2751-1 FAX：088-847-8672
高知県立大学社会福祉学部・高校生公開講座係



3. 使用教室の関係で、参加定員は80名とさせていただきます。受講希望者多数の場合は、学校・学年などを参考に人数を調整させていただくことがありますので、あらかじめご容赦ください。（参加定員等の都合で参加いただけない場合、7月22日（金）までにお申込み確認に連絡いたします）。

* 講座は主に高校2、3年生対象で、男女問わず参加可能です。

高校生のための 公開講座2011

高知県立大学社会福祉学部へようこそ！



社会福祉士
合格率
88.2%
(全国平均
28.1%)

精神保健福
祉士合格率
94.4%
(全国平均
58.3%)

高知県立大学社会福祉学部は、
社会福祉領域のプロフェッショ
ナルを養成する、四国内で唯一の
公立大学です。

更に、西日本で唯一、3福
祉士資格に対応した公立大学
となりました。

未来のプロフェッショナルを育て
る高知県立大学の雰囲気や、
この夏、体験してみませんか？

就職率 100%
(2010年度卒業生)

2011年
7月30日
(土曜日)
開講！

高知県立大学
社会福祉学部
<http://www.hochisap-fu/fu/>

- 高知県立大学は2011年度より男女共学となりました -

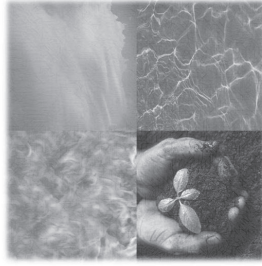
第12回高校生のための公開講座
2011年度のLINE-UP!

	<p>7月30日(土)</p> <p>【池キャンパスへのアクセス】バス：土佐電トリムサービス 高知県立大学・医療センター線 高知駅前 はりまや橋 高知医療センター 高知県立大学 9:10 → 9:17 → 9:36 → 9:38 入場料 390円</p> <p>【開講式】高知県立大学社会福祉学部の紹介 (前山 智 学部長)</p> <p>【講座①】社会福祉士に関わる授業 「超高齢社会とソーシャルワーカーの役割」 (橋本 力 助教)</p> <p>10:00~</p> <p>1 時限 10:20~11:50</p> <p>昼休み 11:50~12:50</p> <p>2 時限 12:50~14:20</p> <p>3 時限 14:30~16:00</p> <p>【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「今求められる精神保健福祉士のしごと」 (箱田 佳代 助教)</p> <p>【講座③】介護福祉士に関わる授業 「介護福祉士の魅力とやりがい」 (田中 真希 助教)</p> <p>【池キャンパスからのアクセス】バス：土佐電トリムサービス 高知県立大学・医療センター線 高知県立大学 高知医療センター はりまや橋 高知駅前 16:46 → 16:50 → 17:11 → 17:16 入場料 330円</p>
--	--

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

【会場】社会福祉学部棟(E棟) E103教室

- 7月30日(土)は学内の売店・食堂が休業しております。各自で昼食をご準備ください。
- 3時限目終了時に簡単なアンケートにご協力ください。
- 翌7月31日(日)は高知県立大学オープンキャンパスが開催されます(事前申込不要)。こちらにもぜひお越しください。



お申込みお待ちしております!

高知県立大学社会福祉学部
池キャンパス

〒781-8515 高知県高知市池 2751-1
TEL: 088-847-8700 (大学代表)
TEL: 088-847-8757 (学部代表)
FAX: 088-847-8672 (学部専用)
<http://www.u-kochi.ac.jp/~fukushi/>

○高校生のための公開講座 2011 ポスター

高知県立大学社会福祉学部
第12回

高校生のための公開講座

7月30日（土）

10:00～	(開講式) 高知県立大学社会福祉学部の紹介 (前山 智 学部長)
1 時限 10:20～11:50	【講座①】社会福祉士に関わる授業 「超高齢社会とソーシャルワーカーの役割」 (橋本 力 助教)
11:50～12:50	昼休み
2 時限 12:50～14:20	【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「今求められる精神保健福祉士のしごと」 (稲垣 佳代 助教)
3 時限 14:30～16:00	【講座③】介護福祉士に関わる授業 「介護福祉士の魅力とやりがい」 (田中 真希 助教)
3時限目終了時に簡単なアンケートにご協力ください	

○高校生のための公開講座 2011 受講申込書

第 12 回高校生のための公開講座 受講申込書

2011年 月 日

(フリガナ) 高等学校の 担当教員名			
(フリガナ) 高等学校名			
〒			
高等学校の 所在地 等			
TEL		FAX	
受講希望者全員の氏名(フリガナ)・学年・利用予定交通手段			
No	お 名 前 (漢 字)	(フリガナ)	学 年 利用予定 交通手段
1			
2			
3			
4			
5			
特記事項			

※本学部がこの申込書によって知り得た個人情報は、「高校生のための公開講座」開催の目的以外には利用しません。

申込締切（必着）：**2011年7月15日(金)**

大学使用欄			
-------	--	--	--

高知県立大学社会福祉学部
FAX (学部専用)：088-847-8672

健康長寿センター

上白木悦子

○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会

全学の運営委員会として、平成23年4月から平成24年3月までに、合計11回の会議を開催した。

2. 健康長寿センター運営委員

- 1) センター長：池田光徳先生（看護学部 教授）
- 2) 野島佐由美副学長（健康長寿に関わる事業担当）
- 3) 総務企画課健康長寿センター担当職員3名
- 4) 文化学部1名、看護学部教員2名、健康栄養学部5名、社会福祉学部5名
合計18名

3. 平成24年度活動実績

詳細やパンフレット等は、85～92ページに掲載する。

○評価

1. 健康長寿体験型セミナーの開催につき、昨年の実績を踏まえ、本年度は、より充実した運営（企画・開催時期・広報・当日の運営等）を行うことができた。
2. 本年度は、これまで、社会福祉学部独自の取り組みとして行ってきたリカレント講座を、健康長寿センター事業（全学）の取り組みとして開催した。これは、年度途中で、組織等の改編が行われたためである。このことに対する対応は、学部内で役割分担を適時適切に行い、スムーズな企画・運営を実施することができた。

○課題

上記評価欄2)で既述したように、運営において、スムーズな遂行を果たすことができたものの、細かな点で、未だ課題は残る。次年度以降の課題としたい。

委員会活動年度報告書（健康長寿センター）

平成23年度健康長寿センター事業

センター4事業の区分	実施年月日	事業名	参加者数
考介健康 え護長 る福長 啓社寿 の社 事会 業を 方支 をえ る	平成23年6月25日	平成23年度 健康長寿体験型セミナー(社会福祉学部企画) 「認知症とその理解－安心して暮らせるために－」	68
	平成23年7月24日	平成23年度 親子でスリム教室・フォローアップ企画	73
	平成23年10月1日	平成23年度 健康長寿体験型セミナー(健康栄養学部企画) 「認知症を予防する食事」	30
	平成23年11月20日	平成23年度 親子でスリム教室・フォローアップ企画	87
	平成24年1月21日	平成23年度 健康長寿体験型セミナー(看護学部企画) 「高知県立大学健康長寿センター体験型セミナーin土佐市」	46
高知県内の看護・福祉・栄養分野に係る人材養成事業	-	看護学部 看護相談室（看護相談室開催パンフ発送）	-
	平成23年5月19日	精神看護学ケア検討会報告(第1回)	13
	平成23年5月25日	新任保健師育成に係るOJT担当者会	44
	平成23年6月9日	家族看護学ケア検討会(第1回)	17
	平成23年6月11日	がん看護学ケア検討会(第1回)	37
	平成23年6月21日	看護相談室2011 老人看護 ケア検討会	18
	平成23年6月23日	第1回在宅看護学ケア検討会	20
	平成23年6月28日	新任保健師研修会(地区診断)	24
	平成23年7月1日	看護管理学ケア検討会(第1回)	25
	平成23年7月5日	新任保健師研修会(個別支援)	40
	平成23年7月8日	家族看護学領域リカレント教育(第1回)	10
	平成23年7月16日	看護学部 公開講座	40
	平成23年8月2日	小児看護学領域リカレント	14
	平成23年8月11日	看護学部 慢性期看護学領域 第1回ケア検討会	37
	平成23年9月3日	第2回 精神看護領域看護相談室 「急性状態にある患者の看護ケア ～救急システム・ケアのポイントを事例を通して学ぶ」	台風のため中止
	平成23年9月27日	看護学部 慢性期看護学領域 第2回ケア検討会	20
	平成23年9月29日	看護学部 慢性期看護学領域 リカレント教育	20
	平成23年10月10日	精神障がいおよび障がい者支援に関する啓発を目的とした映画上映会	162
	平成23年10月12日	看護学部 慢性期看護学領域 第3回ケア検討会	22
	平成23年10月13日	家族看護学領域リカレント教育(第2回)	10
平成23年10月15日	がん看護学ケア検討会(第2回)	23	

委員会活動年度報告書（健康長寿センター）

平成23年度健康長寿センター事業

センター4事業の区分	実施年月日	事業名	参加者数
高知県内の看護・福祉・栄養分野に係る人材養成事業	平成23年10月15日	リカレント教育講座—講演と映画上映 ケアのルーツを訪ねて—	53
	平成23年10月18日	看護相談室2011 老人看護 ケア検討会(第2回)	24
	平成23年10月20日	在宅看護ケア検討会	15
	平成23年10月28日	看護管理学ケア検討会(第2回)	16
	平成23年11月5日	リカレント教育講座—社会保障と税の一体改革—	45
	平成23年11月26日	リカレント教育講座 社会福祉とは何か—社会福祉学の原理—	36
	平成23年12月8日	看護学部 母性・助産看護学領域 ケア検討会	13
	平成23年12月10日	リカレント教育講座 —人材定着のマネジメント:高業績の人材をいかに定着させるか	22
	平成24年1月16日	看護学部 公開講座2	124
	平成24年1月19日	第3回 看護相談室(精神看護領域)	16
	平成24年1月20日	看護管理学ケア検討会(第3回)	26
	平成24年2月5日	看護学部 公開講座3	77
	平成24年2月15日	母性・助産看護学領域 ケア検討会	13
	平成24年2月18日	がん看護学ケア検討会(第3回)	21
平成24年2月19日	修了生の会(小児看護領域)	14	
平成24年2月21日	看護相談室2011 老人看護 ケア検討会	19	
高知健康長寿センターの社会力アップに向けた事業への協働による	平成23年6月4日	高知県立大学健康長寿センター・高知医療センター共同研修会 第1回「インフォームド・コンセント—説明要件と説明同意文書」	43
	平成23年10月1日、8日、15日、29日、11月5日、12日	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 慢性疾患の人のための自己管理プログラム(CDSMP)ワークショップ	8
	平成23年11月12日	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 慢性疾患の人のための自己管理プログラム(CDSMP)ワークショップの振り返り	8
	平成23年10月23日	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 『模擬患者』を活用した医療教育	38
	-	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 「地域住民、患者を対象とした地域・社会貢献・治療食のパフレット作成」	-
	-	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 「地域住民および患者を対象としたカレンダー作成」	-
	平成24年2月18日	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 公開講座「食の安全性—正しい食生活をおこなうために—」	26
	-	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 「地域住民および患者を対象としたカレンダー作成」 健康栄養連携部会封筒作成および郵送料	-
健康長寿(高知型福祉)を目指した地域連携事業	-	土佐市との連携事業 「土佐市における高齢者の介護予防に関する研究— 老年症候群の予防・改善を目的とした学際的アプローチの検証—」	-

実施事業のうち、グレーで示したものは、社会福祉学部が主体的に関わったものである。

○健康長寿体験型セミナー ポスター

健康長寿体験型セミナー

講演 認知症とその理解
—安心して暮らせるために—

北村ゆり先生（菜の花診療所）


当日は、展示・体験コーナーを開催しています。講演終了後に、ぜひお立ち寄りください。

- ◆ 日時 : 平成23年6月25日（土）
10:30-12:00（開場 10:00）
- ◆ 会場 : 高知県立大学 永国寺キャンパス
203教室（高知市永国寺町5-15）
- ◆ 参加費 : 無料
- ◆ 定員 : 150名

- ◆ 事前申込は不要です。
- ◆ お問い合わせ : 088-847-8575（高知県立大学 総務企画課）
- ◆ 主催 : 高知県立大学 健康長寿センター



○リカレント教育講座 パンフレット



**高知県立大学社会福祉学部
学部長 前山 智**


ごあいさつ

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

本年度より高知女子大学は、高知県立大学に名称変更し、男女共学化しました。特に本学部は、平成22年度より定員を30名から70名に増員、3つの福祉士国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に対応しています。現代の複雑な福祉課題に対応可能な専門職養成を目指し、これまでの face-to-face のきめ細やかな教育を継続しながら、専門職養成の量の確保及び質の向上を目標に取り組んでいきたいと考えております。

今年度のリカレント教育講座につきましては、高知県立大学社会福祉学部へ新たに加入した教員を中心に、地域の保健・医療・福祉に携わる専門職の方々や地域にお住まいのみなさまへ向け、社会福祉各領域の講演のみならず新しい取り組みで展開いたします。

お気軽にご参加頂き、日頃の業務に多少なりともお役立て頂ければ幸いです。



**今年度の社会福祉学部リカレント教育講座は
バラエティ豊かで魅力的な講師陣でお送りします**

高知県立大学社会福祉学部
健康長寿センター委員
後藤 由美子

リカレント教育講座担当

今年度のリカレント教育講座は、4月に着任した新任教員や昨年好評をいただいていた教員が担当し、介護や社会保険、理療福祉学、そしてリーディングに関連するテーマを用意しております。これらは、社会福祉やソーシャルワーク、ケアワークを理解ならびに実践するうえで極めて今日の重要なテーマであると考えられます。ぜひご関心をもたれているテーマに応じて、ご参加いただければ幸いです。

いずれの講義も、各担当講師が日頃の研究成果をふまえ、熱意をこめてお話ししますので、福祉・医療分野の専門職のみなさま、県民のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

健康長寿センター事業

**高知県立大学社会福祉学部
リカレント教育講座**

知のフィールドへの招待

2011年 10月15日（土）

11月 5日（土）

11月26日（土）

12月10日（土）

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です。

さらに、昨年度より西日本だけでなく、3福祉士資格に対応した公立大学となりました。

平成23年度 リカレント教育講座①
講演と映画上映

テーマ	ケアのルーツを訪ねて F. ナイチンゲールに学ぶ介護論	日時 (場所)	10月15日(土) 13:00~14:30 (看護福祉棟F110教室)
担当講師	准教授・黒田 しづえ (介護福祉コース教員)	定員	60名

講義形式 (映画上映あり)

介護福祉士という専門職が誕生して20余年になりますが、この間にも高齢化の進展は収まらず、加えて人口の自然減という日本国の有史以来の状況が起きています。これらの社会状況の変化に即応すべく、法や制度の改正がなされていますが、その結果として介護職の業務内容も変化を強いられています。

では、介護（ケア）とは何でしょうか？今から約150年も前にフローレンス・ナイチンゲールによって書きあらわされた著『Notes on Nursing (看護覚え書)』は、この点を明確に論じています。今回、映画化されたこの古典的名著をもとに、介護の本質について学ぶ機会を持ちたいと考えています。

講演 「ケアのルーツを訪ねて」 黒田しづえ (高知県立大学社会福祉学部)
映画上映 「精気は回復過程である ナイチンゲール『看護覚え書』より」

プロフィール

京都府宇治市生まれ。現、独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター付属看護学校を卒業。臨床看護師を経て、訪問看護師として活動する。この時に協働する福祉職種への関心が高まった。特に、介護職種の教育課程に関心を持ったことがきっかけで、平成6年より介護福祉士の養成に携わっている。

佛教大学(社会学部)卒業、大阪人間科学大学(人間科学修士)修了。
神戸総合医療専門学校介護福祉科、花園大学社会福祉学部、神戸女子短期大学総合社会学科において、教育に携わり、2010年度より現職。

平成23年度 リカレント教育講座②
講演

テーマ	社会保障制度改革の 動向とゆくえ	日時 (場所)	11月5日(土) 13:30~15:30 (社会福祉学部棟E102教室)
担当講師	教授：田中 きよむ	定員	70名

講義形式

現在、政府は、「社会保障と税の一体改革」を中心に、社会保障各分野の制度改革を検討しています。年金、医療、介護、保育、障害者福祉、生活保護などは、どのような改革が進められようとしているのでしょうか。また、そのような制度改革は税制とどのように結びつけて実施されるのでしょうか。

本講座では、「一体改革」などの最新動向をふくめ、社会保障各分野のこれまでの制度改革の動向と今後のゆくえをできる限りわかりやすく解説するとともに、それらが私たちの生活にどのような影響を与えるかを考えながら、制度改革の課題、問題点と今後の方向についても言及したいと思います。

プロフィール

滋賀県大津市生まれ。滋賀大学大学院修士課程修了、京都大学大学院博士後期課程単位取得退学後、高知大学教員を経て、2006年度から高知女子大学(現・高知県立大学)教授。

- (専門教育・研究分野) 社会保障論・福祉行政論・公的扶助論・地域福祉論
- (著書) ・共著『高知の高齢者と保健福祉』(高知市文化振興委員会、1997年)
 - 『介護保険から保健福祉のまちづくりへ』(自治体研究社、2001年)
 - 『新しい公共性と地域再生』(明社堂、2006年)
 - 『障害者の人権と発達』(全国障害者問題研究会出版部、2007年)
 - 『財政健全化は自治体を再建するか』(自治体研究社、2008年)
 - ・単著『少子高齢社会の福祉経済論』(中央法規出版、2004年)
 - 『改訂版 少子高齢社会の福祉経済論』(中央法規出版、2006年)
 - 『少子高齢社会の社会保障論』(中央法規出版、2010年)

平成23年度 リカレント教育講座③

講演

テーマ	社会福祉とは何か —社会福祉学の原理— (社会福祉学概論 E102 教室)	日時 (場所)	11月26日(土) 13:30~15:30 (社会福祉学棟 E102 教室)
担当講師	教員：丸岡 利剛	定員	70名

講演形式

社会福祉とは何か。それは、社会福祉研究の個別領域ごとの諸研究を横に貫いて、「社会福祉学」を確立した体系として統合するような本質（原理）への問いです。かつて社会福祉本質論争に象徴されたように、社会福祉とは何かをめぐって研究者や現場の人々が喧々囂々たる論争を繰り広げた時期がありました。

今やそのような本質を問う原理研究に、誰も手をつけなくなっています。もはやそれを追求める契機を失ってしまったのでしょうか。言えるのは、社会福祉学の個別の領域が専門分化して、個別に深められて展開されていることです。そのために、これらの領域を横断する原理を追求するには、その領域ごとの専門の到達地点も視野に入れなければならないという限界があります。

この講義では、眼界を乗り越えるために、もう一度原点に返ってメタフィジカルな学問論や社会福祉の固有性や独自性という課題から追求する方法などによって、社会福祉学のエッセンスをできるだけわかりやすく説明します。

プロフィール

大阪府立大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了。福祉事務所ケースワーカーなどを経て、2000年から関西福祉大学、本年度から高知県立大学に兼任。

専門は「理論福祉学」（メタ福祉学）。理論福祉学の体系化をライフワークとしている。その内容は、ソーシャルワーク理論モデルの検討、欧米産の社会福祉関連の学説の紹介と批判的検討、メタ福祉学の構築を典型とする社会福祉学に関する研究の議論、社会福祉関連での歴史的なパラダイムについての議論を中心にしたものである。

平成23年度 リカレント教育講座④

講演

テーマ	人材定着のマネジメント —高業態の人材をいかに定着させるか—	日時 (場所)	12月10日(土) 13:30~15:30 (共用棟大講義室)
担当講師	講師：福岡 慶康	定員	100名

講演形式

現代は人材獲得競争の時代であるといわれています。これを逆の面からみると、高業績をあげている人材がいつでも他の組織に流出する可能性がある時代ということになります。組織の人的資源管理の観点からこのような状況をみた場合、重要なキーワードがリテンション（定着）です。

さて、現代の企業組織のキャリア発達は、研修やOJT等による、所属している組織における発達がその中心となっています。つまり、組織を抜きにしてキャリアの問題は語ることはできない現状にあります。組織にキャリアを預けるのではなく、場合によっては組織を渡り歩いてキャリア発達を図ろうとする職員と、組織への関与を強めることにより職員を引き留め、業績をあげ続けてもらうという組織は、いわば逆の関係にあります。

ここでは、組織の間に軸足を置き、高業績人材のマネジメントの観点から、今や企業組織だけでなく、多くの病院や福祉施設といったヒューマン・サービス組織の現代的課題であるリテンションの問題について、考えていきます。

プロフィール

広島大学大学院社会科学部博士課程前期マネジメント専攻修士（マネジメント）。

1994年より11年間、広島県社会福祉協議会にて採用、人材育成、法人運営などに携わる。2005年より聖隷クリストフアール大学社会福祉学部助手、助教、2011年より現職。

専門：福祉サービスの組織と経営
現在、「ヒューマン・サービス組織の専門職のサービスの質をいかに向上させるか」をテーマに研究を行っている。

平成 23 年度リカレント教育講座申込書

2011 年 月 日

（のりか） 氏名		
連絡先		
<input type="checkbox"/> 勤務先	TEL	FAX
<input type="checkbox"/> ご自宅	E-mail	
勤務先の名称		
職 種		
↓受講ご希望講座に <input checked="" type="checkbox"/> をつけてください（複数講座の選択（併修）可能）		
	ケアのルーツを訪ねて —F. ナイチンゲールに学ぶ介護—	【H23 年 10 月 15 日（土）】
演 目	社会保険制度改革の動向とゆくえ	【H23 年 11 月 5 日（土）】
	社会福祉とは何か —社会福祉学の原理—	【H23 年 11 月 26 日（土）】
	人材定着のマネジメント —高業種の人材定着いかに実証させるか—	【H23 年 12 月 10 日（土）】
本学部卒業生の場合記入	高知県立大学社会福祉学部 第 期 生	
特記事項		
これまでの受講経歴	有 ・ 無（今回が初めて）	

- 申込者がいない場合、当該講座は開講いたしません。
- この申込書によって知り得た個人情報は「リカレント教育講座」実施の目的以外には利用いたしません。

お申込締切日：各講座実施日の 1 週間前まで

申込書が足りない場合はコピーしていただくか、高知県立大学社会福祉学部のホームページよりダウンロードしてください。

リカレント教育講座の受講お申込方法

リカレント教育講座申込書（別紙）の必要事項にご記入ください
（無のボールペンなどを用い、楷書ではっきりとお書きください）



申込書を F.A.X または郵... 送でお送りください

お申込締切は、各講座実施日の 1 週間前まで

お申込先 □

〔郵 送〕

〒781-8515

高知市池 2751-1

高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座 係

〔F A X〕

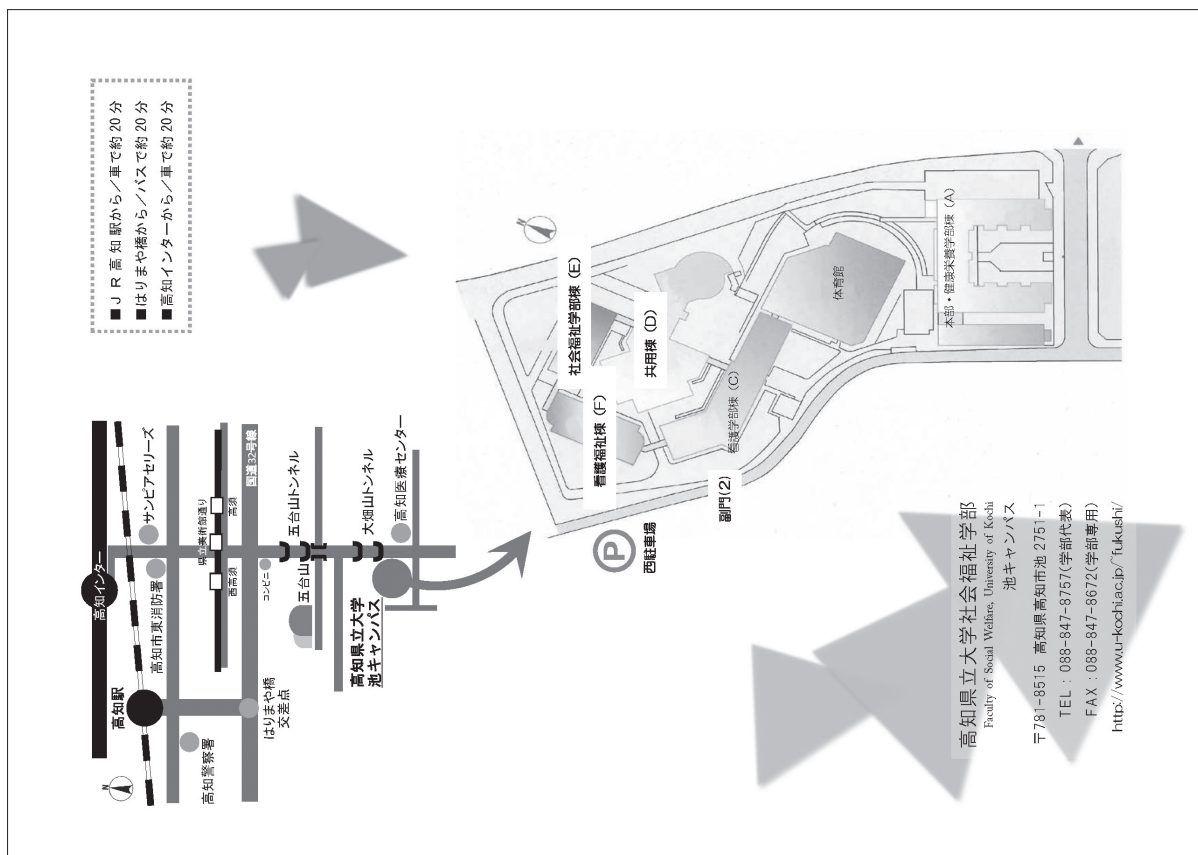
088-847-8672



当日、講座の開催される棟へ直接お越しください
（会場のおそばに受付を設置しております）



- いずれの講座も、ご関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。
- 複数の講座を併修可能です。申込者がいない場合、当該講座は開講いたしません。
- 講座はすべて高知県立大学池キャンパスで開催いたします。



平成 23 年度リカレント教育講座受講申込書
 (必要事項をご記入し、F.A.Xか郵送でお申込ください)

お申込先 □
 [郵 送] 〒781-8515
 高知市池 2751-1
 高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座 係

[F A X] **088-847-8672**

お申込締切日 □

各講座実施日の 1 週間前まで

お申込お待ちしております！

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

上白木悦子

○設立の経緯

本協議会は、平成22年11月に締結をした、高知医療センター・高知県立大学包括的連携協定(下記)を根拠に設置された。

「高知医療センターと高知県立大学は、両機関が行う医療・健康・福祉・栄養分野における知的・人的資材の交流連携を推進し、相互の教育・研究の一層の進展と地域社会の発展に資することを目的として、包括的連携協定を締結している。」

本協議会は、健康長寿・地域医療連携部会、看護・社会福祉連携部会、健康栄養連携部会から成る。

○看護・社会福祉連携部会について

1) 組織

- (1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、医療ソーシャルワーカー
- (2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2) 事業

- (1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- (2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- (3) 教員によるコンサルテーションの実施
- (4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- (5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- (6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

- 1) 平成23年7月より取り組みを始めた、共同研修会（上記事業(3)にあたる）を毎月1回、定期開催することができた（詳細は、94ページ）。
- 2) 医療ソーシャルワーカーと教員とによる共同研究（上記事業(4)にあたる）に取り組み始めることができた。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

- 1) 医療ソーシャルワーカーと教員とで行う共同研究の成果につき、国内学会にて報告を行う。
- 2) 看護領域との連携を図る。
- 3) 平成24年4月より高知医療センターに開設される、精神科外来・病棟（精神保健福祉士等）との連携を図る。

教員によるコンサルテーションの実施

No.	実施日・期間	氏名 or 対象	参加人数	事業内容
1	平成23年 7月20日(水) 18:00～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	11名	①定例合同研修会;テーマ「日本社会福祉学会」報告会 報告者:藤井しのぶ 生きる力を育むために ～これからのソーシャルワークの話をしよう～ ②研究テーマ紹介 報告者:上白木悦子(研究論文提供) ③MSW記録に関する情報交換
2	8月24日(水) 17:30～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	11名	①定例合同研修会;テーマ「生活保護」 報告者:水田景子 岡田阿子 「新人市職員の生活保護に対する意識」～生活保護CWの現状を踏まえて 「生活保護」～私たちが日々感じるジレンマと今後の課題～ ②研究テーマ紹介; 報告者:鈴木裕介(研究論文提供)
3	9月21日(水) 17:30～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師 まごころ窓口事務	10名	①定例合同研修会;テーマ「日常生活自立支援事業」 報告者:中山真紀 「日常生活自立支援事業」について 制度と活動の実際 ②生活保護に関する情報交換 ③MSW業務に関する情報交換 ④記録に関する論文紹介 報告者:鈴木裕介 (医療ソーシャルワークの記録の現状と課題他:文献提供)
4	10月19日(水) 17:30～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	10名	①定例合同研修会;テーマ「ブレインストーミング」 司会者:和田真奈美 ブレインストーミングと実際 ②MSWによる退院支援に関する論文紹介 報告者:鈴木裕介 (医療機関の機能分化とMSWの退院支援における先行研究の到達点と課題他文献提供)
5	11月16日(水) 18:00～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	9名	学会発表に向けた検討
6	12月21日(水) 18:00～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	8名	①定例合同研修会;テーマ「第7期保健医療分野におけるソーシャルワーカー専門研修 -スクリーニング-」 報告者:川上めぐみ ②定例合同研修会;テーマ「2011年度医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ」 報告者:吉村知彩 ③学会発表に向けた検討
7	平成24年 1月26日(木) 18:00～19:30	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	10名	①定例合同研修会;テーマ「事例検討 患者本人につきあう」 報告者:川上めぐみ ②学会発表に向けた検討
8	2月22日(水) 17:30～19:00	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	9名	①定例合同研修会;テーマ「事例検討 同一化と共感」 報告者:水田景子 ②本年度の事業評価、次年度活動計画案について
9	3月21日(水) 17:30～19:00	社会福祉学部 医療ソーシャル ワーカー 看護師	9名	学会発表に向けた検討

総務・予算委員会

長澤 紀美子

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

① 教授会の資料準備及び運営：議題・資料の整理、議事メモの作成等

② 社会福祉学部棟施設・備品の整備（情報処理部会関係含む）

- ・ 社会福祉学部棟 3階に印刷機を導入し、印刷場所を学生・教員共用（3階福祉実習支援室内）と教員専用（4階教材作成室）に区別した。それに伴い、印刷機の設置場所と助教教員の今後の増員を考慮し、福祉実習支援室のレイアウトを変更した。
- ・ 4階（E415）の教材編集用視聴覚機器にブルーレイ対応DVDプレーヤーを導入した。
- ・ 新たにゼミを担当する教員のゼミ室の整備やパソコンの導入を行った。
- ・ 4回生の国試準備・卒論作成用に空きゼミ室や福祉調査実習室を自主学习室として使用できるよう整備し、使用簿で管理する体制を作った。
- ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、ハードディスク管理及びウィルス対策のソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。

③ 広報委員会と協力して高校生見学に対応

- ・ 6/10 春野高校：生徒41名（2年生）、教員2名
- ・ 7/5 板野高校：保護者15名、教員4名
- ・ 7/13 室戸高校：生徒20名（1年生）、教員2名
- ・ 10/21 高知東高校：生徒46名（1年生）、教員2名
- ・ 11/17 嶺北高校：生徒19名（2年生）、教員2名

見学時には、学生が作成したDVD上映や、高校の卒業生である在学生による学部の紹介、介護コース教員の協力による介護体験を行った。

④ 学部日常事務の対応

学部事務職員の協力をえて、寄贈資料・手紙の整理、回覧などの仕事に対応した。

⑤ 平成22年度『社会福祉学部報』『学部パンフレット』発行

平成22（2010）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体300部を作成し、関係各所に配布した。また広報委員会との協力により、『高知県立大学社会福祉学部（学部パンフレット）』を新たに発行した（1,200部）。

⑥ 卒業生動向調査並びに卒業生を対象した各種案内の送付

広報委員会と協力し、卒業生の動向調査を行うとともに卒業生に対し、リカレント教育講座や大学院案内等を随時送付し、校名変更後も卒業生が本学に関心をもてるよう努めた。

⑦ 学生教育用図書の配置

助教教員の協力により、国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書を選び、福祉実習支援室に配置した。

⑧ 予算の効率的利用に向けたコピー費の管理

従来、学部共通経費（実験実習費）により支出した教員コピー代について、一定の枚数を超えた場合に教員研究費（個人配分）により支出するしくみを来年度に導入するための準備を行った。

2. 今後の課題

平成23年度において教員が8名増員し、助教が5名体制になった。それに伴う役割分担の再編、教員と事務職員との業務分掌の明確化、学生の定員増に伴う設備や消耗品の対応、備品等の計画的な整備等が継続的な課題である。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

3回生後半から4回生にかけて

3回生の3月に国家試験を終えた先輩の体験談を聞き、早く勉強を始めようと思って参考書を買ったのですが、就職活動とアルバイト、卒業論文と精神保健福祉士の実習など、なかなか集中できませんでした。

受験が近付いて

本当にやばい！！と思ったのは11月です。10月に実施されたひとつめの模擬試験の結果が返ってきたときでした。その結果は点数が50%以下で、なんで！？勉強したのに！という感じでした。今、振り返ってみると勉強できていないのに、勉強したつもりになっていました。

そこで新藤先生のところに相談に行き、というか成績が悪くて呼び出され、これから何をすればいいのか、どれだけしか時間がないのか、を真剣に相談に乗ってもらいました。まず、全科目の得点表をもらい4年分の過去問を3回やるというスケジュールをたて、それをこなすことに集中しました。11月に半ばで、絶対間に合わない！と思いました。しかし、初めて問題を解く1回目は時間がかかりますが、2回目、3回目となると、半分の時間でこなせるようになりました。最終的に本番までに過去4年間の過去問を3回、模試7年分を2回解きました。

受験勉強以外の生活について

余談ですが、私は1月1日、試験3週間前まで普通にアルバイトを続けていました。4回生になれば、辞めなければと思っていましたが、私にとってアルバイトが唯一現実逃避出来る貴重な場所だったので、息抜きのつもりで続けていました。その代わり、時間を決めて勉強することを徹底しました。バイトの休みをもらってからは、朝9時までに学校へ行き、夜9時まで12時間勉強を続けました。

後輩のみなさんへ

大事なことは毎日続けること、同じ問題を何回解いても合うようになることだと思います。この1年、私にとって、辛く苦しいことが続き、思うようにいかないこともたくさんあったのですが、乗り越えられたのは、先生方の応援、友達の励ましがあったからだと強く感じています。もう駄目だ、とか、自分は周りとは比べ劣っている、とか、たくさんのことを考えましたが、最終的にそんな自分を受け入れ、じゃあ、何が出来るのか、と考えることも大事だと思いました。

私の経験では、毎日という日々の積み重ねを大切にすることができたら、きっと国家試験に合格できる！と思います。後輩のみなさんもがんばってください。

学生を中心とした活動（国家試験に向けての取り組み）

付 記 :

2011年度国家試験合格率	本 学	全 国
社会福祉士（第24回）	75.8%	26.3%
	第 12 位	216 校中 ^{※1}
精神保健福祉士（第14回）	90.5%	62.6%
	第 14 位	117 校中 ^{※2}

※1 10名以上受験した福祉系大学等 216 校中

※2 10名以上受験した福祉系大学等 117 校中

国際交流

エルムズ大学からの留学生との交流

2011年5月21日から6月3日にかけて、アメリカのエルムズ大学の学生5名と教員1名が本学へ来校しました。

社会福祉学部では、留学生を歓迎するため、1回生による交流会が開催されました。

交流会では、1回生が企画したゲームや歌が披露され、大いに盛り上がりました。また、介護コースの学生による手浴体験では、心地よいマッサージに込められたもてなしの気持ちに、留学生の長旅の疲れもほぐれ、すっかりリラックスしていました。

さらに、生け花体験やフェアウェルパーティの際に披露された太鼓部による演奏、よさこいチームグローバルクラブ Japarean (ジャパリアン) による踊りなど、日本や高知の様々な文化が紹介されました。

社会福祉学部の学生、エルムズ大学の留学生ともに、思い出に残る貴重な交流となりました。



アメリカへの短期留学（学生による体験記）

私たちは、2月19日から3月6日の間アメリカへ短期留学をしました。

留学した2週間は私たちにとって、あっという間でした。馴染みのない言語が飛び交う中での生活は不安もありましたが、たくさんの友達が出来ました。また、タイムズスクエアや自由の女神等を観光したり、福祉施設などを訪問しアメリカの社会問題について考えさせられたりと、留学でしか経験できないこともたくさん経験できました。

アメリカでの経験を通して、自分自身の視野が広がり、現地の人々と交流していく中で、新たなものの見方や考え方を学びました。語学力が向上し、世界観が広がっただけでなく一生の友達が出来たことが何よりも収穫でした。今回の留学で得たものすべてが、私たちの一生の宝物です。



学外イベントへの参加

第10回高知ふくし機器展に参加しました

2011年6月3～5日、高知県立ふくし交流プラザで「第10回高知ふくし機器展」が開催されました。

本学部からは、4・5日の2日間、1、2回生を中心に約85名がボランティアとして参加し、入場受付や会場の案内、福祉機器の説明などを行いました。

それぞれの役割を一生懸命こなしながら、来場者と触れ合う中で見せる学生の笑顔がとても印象的でした。学生にとって、コミュニケーション機器や自助具、福祉車両などに直接触れる体験を通し、学びにつながる2日間となりました。



こうち介護の日 2011に参加しました



2011年11月6日、高知市中央公園で介護の日のイベントとして、「こうち介護の日 2011」が開催されました。

社会福祉学部からは介護福祉を学ぶ1回生が参加し、手浴体験の催しを行いました。

手浴は、温かいお湯の中に手を浸しマッサージを行うことで、心身両面のリラクゼーションを促すことを目的としています。

当日は、午前中から常に順番を待つ人が絶えることなく、手浴の心地よさにリラックスされている方、学生との会話を楽しまれている方、お母さんと一緒に手浴を楽しむ小さな子どもさんの姿など、手浴コーナーは常に温かい雰囲気にもまれていました。

手浴前は少し緊張されていた方が次第に笑顔になり、心身共に寛がれている姿が印象的でした。手浴を通じての地域の方々との交流に、学生自身も多くの学びや喜びを感じた時間となりました。



グローバルクラブ

私たちグローバルクラブは、「国際交流」「地域交流」「ボランティア」を3本柱として活動しているサークルです。みさとフェアなどの地域のイベントや、ボランティアに参加しています。

その中でも、グローバルクラブの活動の中心を担っているのが、よさこいチーム「グローバルクラブ J a p a r e a n（高知県立大学）」の運営です。このチームはグローバルクラブのメンバーがメインスタッフとなり、チームコンセプトの企画・立案から振りづくり、地方車の製作まで幅広い準備を行い、よさこい祭りの出場を目指します。今年度も、多くの方々からのご支援・ご協力に支えられながら、よさこい祭りまで準備を進めていきました。

2011年度のグローバルクラブ J a p a r e a nは「閃華」というコンセプトで活動を行いました。

今年度は「高知女子大学」から「高知県立大学」へと学校の名称変更もあったため、J a p a r e a nも良き伝統を受け継ぎながらも新しく変化していこう、という思いがチームにありました。そこで、移り変わるという意味の熟語「遷化」の漢字を変え、「閃華」としました。この漢字は、J a p a r e a nの一員として参加するよさこい祭りの日々が、閃光のように輝く、華やかな思い出となってほしいという思いが込められています。

そしてこのコンセプトのもと、25名の韓国学生と高知県立大学の在學生や卒業生、また他大学や専門学校の学生、地域の社会人の方々と共に、本祭りに出場し、無事2日間を踊りきることができました。明るい笑顔が溢れ、忘れられない素敵な夏の思い出となりました。

今年度は、よさこい祭りに向けて準備を進めていく中で、チームを継続させていくことの難しさを感じました。時代が移り変わっていく中で、私たちの活動も以前と全く同じようにできないこともありました。代々受け継いできた伝統の重みを大切にしたいという思いと、今年度のコンセプト「閃華」にふさわしいチーム作りを、という思いの間で、何度も迷い、悩みました。そのような状況でも私たちがくじけずに活動を続けることができたのは、仲間、OGの先輩方、後輩たち、顧問の先生など、多くの支えてくれる人がいたからだと思います。これからチームを主となって運営していく後輩たちも、支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、辛くて苦しいことから逃げずに向き合っていってほしいと思います。

最後に、いつもグローバルクラブの活動にご理解とご支援をいただき、大変感謝しております。これからも高知県立大学の1サークルとして、大学や地域に根ざした活動を進めていきたいと思っております。どうかご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。



太 鼓 部

太鼓部は現在3年生、4年生の計9名で活動しています。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。昨年度は、入学式・学祭・卒業式の学校行事に参加して太鼓を演奏しました。また、三里祭りをはじめとした地域のお祭りごとはもちろんのこと、福祉施設を訪問したりして太鼓の演奏を通して地域の人たちと交流しました。

一つの曲を仕上げるには、たくさん練習を積み重ねなければなりません。曲を仕上げる際に、毎日練習を行うので部員同士でぶつかりあうこともあります。しかし、そういったことを乗り越えることで、一つの曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、同時に部員同士の絆が深まっていくのが感じられます。また、訪問先の福祉施設や地域のお祭りでは、たくさんの方に喜んでいただき、次の練習の励みになっています。さらに、地域とのつながりも増えるので得るものがとても多いと思います。



このように太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら、様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができると思います。さらにそれらの経験は、大学を卒業した後も役に立つのではないかと思います。太鼓部の良さをより多くの人に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池手話サークル

こんにちは！池手話サークルです☆

私たちは週に1回、社会福祉学部棟の一室で、本などを参考にプログラムを組み、楽しく練習に取り組んでいます。

今年度は、近隣地域の福祉施設に定期的に訪問し、職員の方や利用者の方々と楽しく交流をしながら手話の日常会話や手話コーラスをすることができて、私たち自身にとっても有意義な時間となりました。

また、学園祭や耳の日記念集会で手話コーラスを発表したり、高知県聴覚障害者協会青年部の方々と交流会をするなど、様々な活動に挑戦してきました。特に、青年部との交流会では、実際に耳の不自由な方と手話を使ってコミュニケーションをはかることができました。しかし、普段の練習と実際の手話のコミュニケーションではやはり違いは大きく、会話のスピードや表現・読み取りの難しさなどを実感しました。それ以降は、そういった経験も踏まえて練習の内容を改善し、組み立てていくように心がけました。

2011年度の活動を振り返ってみて感じることは、実際に手話を実践できる機会の大切さでした。これからの手話サークルの活動としては、青年部との交流の機会を積極的に設けていきたいと考えています。

手話は難しそうなイメージもありますが、それぞれの手話には由来があり、楽しく覚えることが出来ます。これからも楽しく手話について学んでいきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。



いけとべ！

みなさんは日本で使われなくなった車いすがどうなっているか知っていますか？実は、その多くが、リサイクルされずに廃棄処分されているのです。

そこで、日本で使われなくなった車いすを集め、修理し海外旅行をする旅行者の手荷物として発展途上国の病院や施設に直接送り届ける活動を行っているNPO法人「飛んでけ！車いす」の会が発足しました。

そんな思いに感銘を受け、『いけとべ！』は「日本では使われなくなった車いすを高知県立大学池キャンパスから発展途上国に飛ばそう！」という思いから、2006年に結成されました。サークル結成以来、17台の車いすを飛ばしました（2012年4月現在）。



2011年度は6月に高知ふくし機器展にて手作りのカレーブースを担当しました。2日間で300人分のカレーを提供しました。10月には高知県立大学紅葉祭にてカノムクロック（タイ/ココナッツミルクを使ったたこ焼きのような甘いお菓子）、ポルボロン（スペイン/「ポルボロン、ポルボロン、ポルボロン」と3回唱えると幸せになれると言われている）、パラチンキ（ブルガリア・チェコ/薄く焼いたクレープ状のパンケーキでジャムなどを包んだもの）などの外国の手作りお菓子を販売しました。今年度は部員同士の交流を兼ね、車いすについて学ぶための合宿やスポーツ大会など催し物を多数開催しました。また、マンガロー部とコラボレーションし、『いけとべ！』でメンテナンスをした車いす2台をフィリピンに運んでもらいました。



現在部員は4回生2名、3回生4名、2回生2名、1回生1名の計9名で、学生会館2階フリースペースにて車いすのメンテナンスを中心に活動しています。今年度は、『いけとべ！』の部員で海外に車いすを飛ばすことも考えています。

ハモ☆イケ

『ハモ☆イケ』とは、高知医療センターの「ハーモニーこうち」でボランティアをしているイケてる池キャンパスの学生が和気あいあいと活動しているサークルです！

メンバーは、社会福祉学部の学生で構成されており、主に授業の空き時間や放課後を使って、のびのびと活動しています☆

ボランティア内容は

- * 入院案内…患者さんを部屋まで案内します。(月・火・木 13:00~14:00)
- * 図書サービス (水・木 13:30~15:30)
- * 小児入院フロアでの見守り (毎日 お昼中心に随時)
- * 花壇の手入れや掃除など

「ハーモニーこうち」のボランティアさんと一緒に活動していますが、皆さんとても親切で、私たち大学生がボランティアに行くと、ボランティア後にお茶やおやつを出してくれたりなど、とても可愛がってくれます。

しかし、年々ボランティアさんの人数も減ってきており、入院患者さんの案内が週に1回しかできなくなっているなど、たくさん問題も抱えています。『ハモ☆イケ』を立ち上げたきっかけも、「社会福祉学部のサークルとして、ハーモニーこうちを盛り上げていってくれないかな？」というボランティアさんの声でした。お隣さん同士、助け合いながら、患者さんやご家族の方たちを支えていこうじゃないか！そんな決意のもと、立ち上げたサークルです。このサークルが代々、社会福祉学部の後輩たちに引き継がれていけばいいなあと思っています。

2011年度は、サークルのメンバー一人ひとりが、出来る限り月1回はボランティアに行くようにシフトを作り活動するようにしていました。しかし、なかなか授業の空き時間と来てほしいボランティアの時間が合わず、特に図書サービスや入院患者さんの案内ができていませんでした。授業もあるので難しいかもしれませんが、今後少しでもそれらのボランティア活動を増やしていきたいと考えています。

毎年行っている医療センターでのバザーや、クリスマスツリーの飾り付けなど、イベントへのボランティアには積極的に参加できました。「ハーモニーこうち」の皆さんと一緒に、楽しみながら盛り上げることができたので、引き続き参加していきたいと思います。

『ハモ☆イケ』が発足して5年目になりますが、未だ試行錯誤を重ねながらの活動です。これからの継続したボランティアができるよう、皆で話し合い、協力しながら、よりよい方向へ向かって行けたらと思っています。



かんきもん

こんにちは！**かんきもん**です。かんきもんは、4回生5人、3回生22人、2回生16人、計43人で活動しており、「農家・農業・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトのもと、農業や農家、地域にかかわっています。

毎年恒例の活動としては、秋に、香美市の物部地区と安芸市で柚子の収穫のお手伝いをしています。柚子収穫の作業は、首や肩がこったり、筋肉痛になったりと体力を使いますが、それ以上に、農家のおばあちゃんやおじいちゃん、地域の方々、自然とふれあう喜びや楽しさの方が大きく、学生生活の中でも忘れられない思い出になります。

2011年度は、北川村で1泊2日の合宿も行い、社会福祉協議会や地域の方のお話を聞く中で、多くの気づきと学びを得ました。今後も農業だけでなく、様々な活動に取り組んでいければと思います。

また、これらの活動と同時に、高知大学・高知工科大学・高知学園短期大学とも連携し、**防犯ボランティアYCPK**（Young Crime Prevention in Kochi；若者防犯ボランティア in 高知）の活動も行っています。県警の方の協力のもと防犯に関するイベントへの参加や小学生の下校の見守り活動、防犯パトロール、ゴミ拾い、自転車整理等を行い地域の活性化や防犯意識の向上を目指し、活動しています。

↓北川村合宿でBBQ&花火



↑安芸市でゆずとりのお手伝い

V

卒業論文題目一覧（2011年度）

2011年度 社会福祉学部社会福祉学科 卒業論文題目

教員氏名	題 目
杉原 俊二	母子保健事業による児童虐待の予防 — ソーシャルワーカーの介入による援助 —
	児童家庭支援センターにおけるソーシャルワークの実際について — 家族再統合に着目して —
	児童養護施設のアフターケアに関する研究 — 支援する側の視点に着目して —
	知的障害児者のきょうだい考える学童期のきょうだい支援 — 「きょうだい会」の活動に着目して —
田中 きよむ	民生委員・児童委員活動の継続要因に関する一考察
	寺社による住民の組織化と現代における地域コミュニティとしての可能性
	市町村社会福祉協議会の居場所づくりに関する一考察 — 社会的孤立防止と地域のつながりの形成に焦点をあてて —
長澤 紀美子	母子生活支援施設における 母子支援員の支援のプロセスと専門性についての研究 — DV被害者の支援に焦点をあてて —
	福祉協力員による小地域ネットワーク活動の継続要因について — 北川村社会福祉協議会の「みまわりさん」活動に焦点を当てて —
	家庭支援専門相談員の位置づけに関する一考察 — 施設内での認識と業務分掌に焦点を当てて —
	あったかふれあいセンター職員による ニーズ発見を目的とした支援に関する研究
林 美朗	障害者就業・生活支援センターにおける余暇への支援に関する研究 — 一般就労をする知的障害者の余暇に対する支援に焦点を当てて —
	無縁社会の概念化に関する研究 — 肯定的側面と否定的側面に焦点を当てて —
	芸術を取り入れた地域づくりの課題 — 直島における行政・企業・NPO・住民の意識を通して —
宮上 多加子	高齢者福祉施設における化粧を用いたレクリエーション活動
	動物介在活動（AAA）を行っている高齢者福祉施設における職員の役割
	中山間地域における配食サービスの人的資源と課題 — 男性のボランティアに焦点を当てて —

卒業論文題目一覧表（2011年度）

教員氏名	題 目
後藤 由美子	精神障害者を対象とする施設コンフリクトについて — 地域への働きかけに関する一考察 —
	末期がん患者の在宅療養におけるMSWの役割 — 訪問看護師・MSWに着目して —
鈴木 孝典	精神科への初回受診に至るまでの家族支援の実態 — 思春期に焦点をあてて —
	精神障害者グループホームにおける日常生活支援の課題
	自閉症の子どもをもつ父親の育児行動の変化 — 障害受容との関連に着目して —
	精神障害者の就労移行支援における効果的な支援について — 当事者と支援者の振り返りからの考察 —
	ソーシャル・サポート・ネットワークが 精神障害者の生活の質の向上に与える影響について — グループホームで暮らす精神障害者に焦点を当てて —
	認知症GHのケアの特性
西内 章	吃音のある子どもをもつ母親の吃音受容に関する研究
	サロンを通じた付き合いに関する意識と行動の研究 — 移動販売を利用する集落に着目して —
	ドメスティック・バイオレンスと二次被害に対する 婦人相談所職員の支援に関する研究
上白木 悦子	DV・デートDVに関する要因と認識についての基礎的研究
	児童虐待対応における連携の重要性について — 高知県での事例を検証して —
西梅 幸治	介護老人保健施設における支援相談員による家族調整支援について — 退所プロセスに着目して —
	知的障害児・者のきょうだいが抱える苦悩の構造 — 学童期のきょうだいに対する支援に向けて —
	母子生活支援施設におけるチームアプローチの研究 — 退所に向けた各専門職の役割に着目して —
	住民参加に基づく防災活動の促進に関する研究 — 市町村社会福祉協議会による 防災意識の低い住民への介入方法に焦点化して —

編 集 後 記

社会福祉学部報第14号をお届けします。

平成23年度は、法人化・共学化に伴い、「高知女子大学」から「高知県立大学」と校名変更が行われ、また社会福祉学部では、学部拡充の教員増に伴い、教員8名が新たにメンバーに加わり、計24名となりました。つい数年前まで30名の学生定員に対し、12名の教員体制であったことを考えると、隔世の感がありますが、「高知女子大学」時代からの特色であるきめ細やかな少人数制教育の良さを継承しつつ、24名体制の強みを活かした充実した教育体制を整えていきたいと考えております。

また本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者の皆様方のご支援ご協力のもと、県内外に活躍する社会福祉専門職を養成するという重要な使命を果たし、多くの卒業生がいま様々な現場で活躍しております。今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を中断なく続けていきたいと思っております。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 宮上 多加子・長澤 紀美子

高知県立大学社会福祉学部報

第14号

発行日：2012年6月29日

発行者：前 山 智（学部長）

編 集：社会福祉学部 総務委員会

杉 村 薫（学部事務）

高 知 県 立 大 学 社 会 福 祉 学 部

〒781-8515 高知県高知市池2751-1

Tel 088-847-8700（大学代表）

Tel 088-847-8757（学部代表）

Fax 088-847-8672（学部専用）